

昭和 43 年度

地力保全基本調査成績書

〔網走湖畔地域 東藻琴村〕

北海道立中央農業試験場

10

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表す。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になっている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

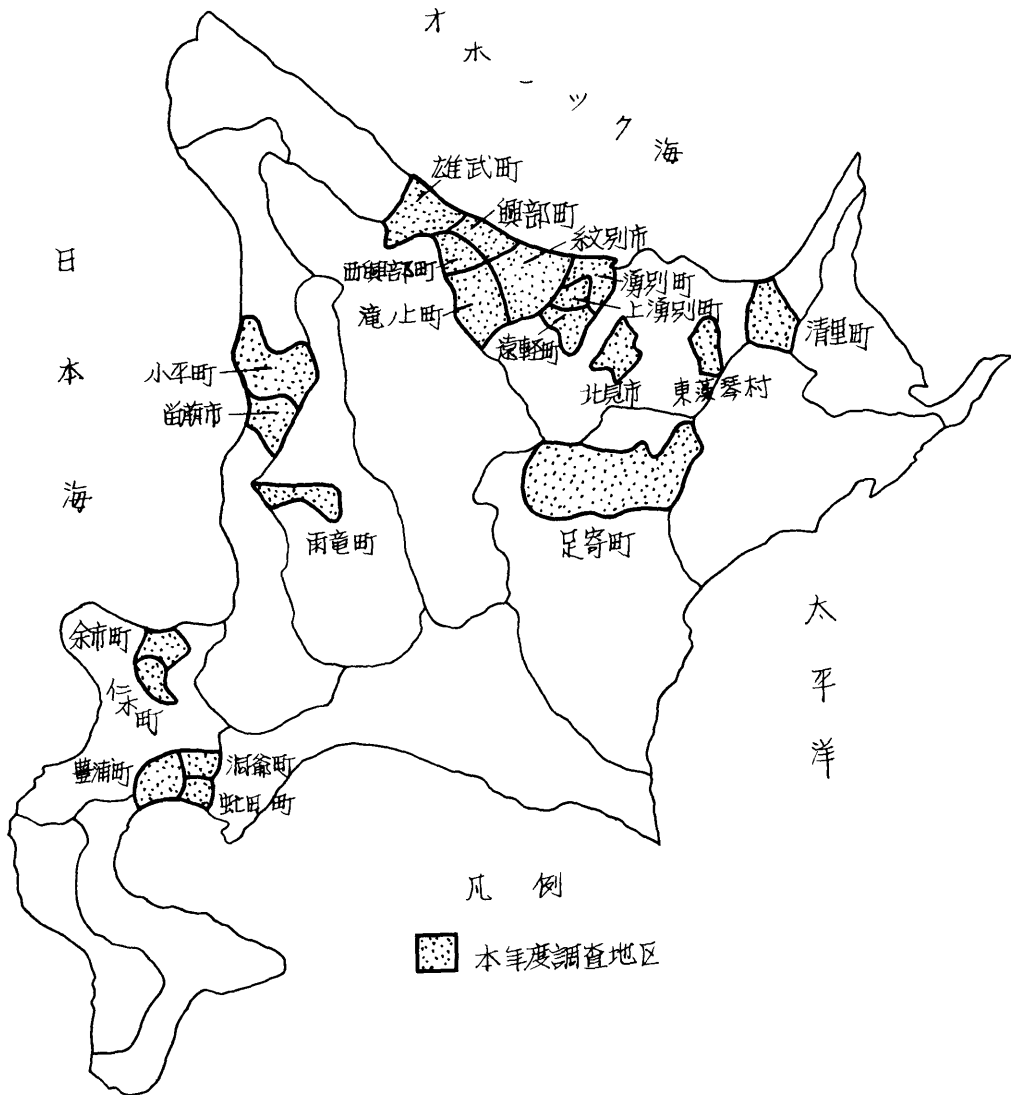
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部	俊 雄	
土壤改良科	科 長	後 藤	計 二	
”	第 1 係長	小 林	荘 司	
”	研究職員	水 元	秀 彰	
	”	伊 東	輝 行	
	”	木 村	清	
	”	松 原	一 実	
	”	坂 本	宜 崇	
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）		
	第 2 係長	大 垣	昭 一	
	研究職員	小 林	茂	
	”	宮 脇	忠	
	”	山 本	晴 雄	
	”	高 橋	市 十 郎	
	”	上 坂	晶 司	
	第 3 係長	高 尾	欽 弥	
十勝農試				
土壤肥料科	研究職員	菊 地	晃 二	
	”	関 谷	長 昭	
北見農試				
土壤肥料科	研究職員	秋 山	喜 三 郎	

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上湧別町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西興部町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻琴村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞爺湖畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後志北部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

調査地区位置図



網走湖畔地域東 藻琴地区

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置

網走支庁管内、網走郡東藻琴村

(2) 調査面積 (ha)

郡 市 町 村 名	農 地 総 面 積				調 査 対 象 面 積				水 田
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
網走郡東藻琴村	138	4,291	—	4,429	138	4,291	—	4,429	—

過 年 度 調 査 面 積			本 年 度 調 査 面 積				次 年 度 以 降 調 査 面 積			
普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
—	—	—	138	4,291	—	4,429	0	0	0	0

2) 気象

本村は北海道の東北部、オホーツク海に近いため、南東季節風の発達が遅れる年にはオホーツク海から冷たい空気が押し出されて所謂初夏の低温をもたらしたり、しばしば冷害をうける。しかし、その程度はオホーツク沿岸の紋別、雄武よりは少ないが、一般に気候は冷涼である。また、年間の平均降水量は道内で最も少ない地帯にあたるが、その略に半量は7～10月に降り、春先の少ない時期に季節風が強く風蝕をうけやすい。しかし、日照時数は年間を通じて比較的多く、網走地方気象台の気象表では次の様になっている。

網走地方気象台

(30年間の平均)

項目		月別									全年
		4	5	6	7	8	9	10	11		
気 温 (℃)	平 均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.4	3.1	5.9	
	最 高 平 均	8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9	9.9	
	最 低 平 均	-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2	2.3	
降 水 量 (mm)	平 均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4	845.4	
蒸 発 量		—	101.4	104.3	110.4	110.1	83.4	65.8	—	—	
湿 度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72	79	
風 速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6	4.0	
風 向		S	S	S	S~ SSE	S~ NNW	S~ SW	S~ SW	SSW~ WSW	S	
日 照 時 数 (時)		196.7	191.7	198.6	191.7	199.7	178.6	179.2	133.9	2,026.2	

晩霜 5月15日、初霜 10月17日

3) 土地条件

(1) 地形

本村は標高約1,000mを有する藻琴山の裾にあつて、北に漸次低走の波状性丘陵を呈し、藻琴山を源とする藻琴川は、シンブイ藻琴川、チブサ藻琴川等多数の支流を合して村の中央部を貫流し、下流は網走市藻琴湖に注いでいる。また、村の東部を縫う丸万川はトウツ湖に入る。これら各河川の両岸には低平地が分布し、低平地の両側はやゝ解析された標高約20~140mの波状性丘陵ないしはやゝ平坦な台地が広がり、低平地に接するところは、一部に略々平坦な段丘が形成されている。更に藻琴山の裾野には標高約100~340mの波状性丘陵が形成されている。

(2) 地質

本村は藻琴山から北へ漸次低走する斜面上にあり、基盤は概ね屈斜路浮石流堆積物等を母材とする洪積世の堆積物で、標高の比較的高い山麓ないし山腹地帯では、その上部に旭岳・雌阿寒岳（As・Meと略記・以下同。）カムイヌプリ岳（M.Km）及び摩周系火山灰（M）等を厚く降灰被覆している。北方向に斜面を下ると、波状性丘陵あるいは波状性台地の様相を呈し、この地帯では洪積世堆積物の基盤の上に降灰堆積する火山灰に欠除するものがあり、洪積層も小沢により解析されたり、火山灰層序もかなり乱れている。これら丘陵及び台地を解析して流れる藻琴川並びにその支流は火山灰降灰堆積物を二次的に水流堆積した河成堆積物を基盤とし、更に、これら河川流域には水積世堆積物からなる略々平坦な段丘あるいは低平地が分布し、この低平地には本村の中心街が開け、本道北東栽培限界にある水稻をはじめ、農業の中心地帯を形成している。尚、河川の下流域、あるいは山際の湿地には小面積の集積土も分布し、いずれも火山灰を被覆している。

(3) 侵蝕状況

本調査地帯の藻琴山山麓並びに波状性丘陵あるいは波状性台地を呈する地帯の緩傾斜～傾斜地では水蝕の発生が見られ、傾斜の急なところではその被害が甚しい。また浮石流堆積物を母材とする地帯は、土壌が軽鬆で、かつ、透水性が良好なため、春先から初夏にかけての乾燥期に襲来する季節風によつて土壌が飛散し、作物の播種期、発芽期にしばしば甚しい被害をこうむる。また、緩傾斜～傾斜地では耐侵蝕性に乏しい土壌のため水蝕も受ける。

(4) 交通状況

本調査地域の略々中央を、網走市、美幌町、小清水町へ通じる道々が走っており、更に藻琴山の標高700mの鞍部を経て弟子屈町川湯に至る路線も開発途上にあり、完成後は本村はこれら四路線の交叉点に当たり、交通の便は比較的良好で、地区内の号線道路も良く発達している。

4) 土地利用及び営農状況

a) 耕地面積 (ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
3,717.8	1,23.4	3,589.5	5.0	—

b) 主要農作物作付面積・収穫量

項目	作物	菜豆	大豆	てん菜	馬鈴薯	はつか	えん麦	小麦	飼料作物	水稻
面積 (ha)		973	89	808	488	259	215	142	857	128
10a当り収量(kg)		157	121	2,701	2,500	497	276	110	—	35

c) 家畜飼育農家数・頭羽数

項目	種類	馬	乳牛	役牛	豚	めん羊	にわとり
飼育戸数(戸)		463	140	1	152	196	171
飼育頭数(頭・羽)		622	1,005	3	1,172	234	10,533
1戸当平均飼育頭数		1.3	7.2	3.0	7.7	1.2	61.6

〔註〕 a)、b)、c)とも昭和41年度市町村勢要覧より。尚昭和40年は冷害年。

本村の経営状況をみると、民有地総面積(12,246ha)に対する耕地総面積は約33%で、1戸当りの耕作面積は約7.3haである。

栽培作物の種類は多く、頭類、てん菜を主体に馬鈴薯、はつか、麦類、飼料作物と多方面にわたっている。尚、栽培上東北限界と云われる水稻が130ha弱作付されている。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土 区一覧

(1) 土壌統一覧

畑

土壌 統名	色層序	腐植層序	礫層砂礫 層礫を混 在する砂層	酸化 沈積物	土 性		母 材 堆 積 様 式
					表 層	次 層	
東洋山園末旭千明	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	壤質	砂質壤質	非固結火成岩(火山灰)・風積/共積
東洋山園末旭千明	"	"	"	"	"	"	"
東洋山園末旭千明	"	"	"	"	"	"	"
東洋山園末旭千明	"	"	"	"	"	粘質壤質	"
東洋山園末旭千明	"	"	"	"	"	壤質	"
広栄	YR/Y	表層多腐植層	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰)・風積/水積
東藻琴子藻琴川	"	表層腐植層	なし	あり	粘質	強粘質	"
東藻琴子藻琴川	"	表層多腐植層	"	"	壤質	壤質	"
藻琴川	YR/YR	"	"	なし	粘質	粘質	"
西倉	Y/Y	全層多腐植層	"	"	"	強粘質	非固結火成(火山灰)・風積/集積

(2) 土壌区一覧

畑

土 壤 区 名	簡略分級式	畑面積(ha)	調査面積(ha)	備 考
東洋一東洋	Meilt(w)fns	460	1,141	
山園一山園	Meilt(w)fns	844	2,684	
末広一末広	lfns	500	561	
旭台一旭台	Meilt(w)fns	205	455	
千草一千草	Meilt(w)fns	275	660	
明生一明生	Meilt(w)fn	939	3,023	
広栄一広栄	ldwse	216	339	

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	畑面積 (ha)	調査面積 (ha)	備 考
東藻琴一東藻琴	lltdpwfni	※ 809	※ 1,007	※この中には水田(138ha)が含まれる
チブサ チブサ	llwfnace	28	232	
藻琴川一藻琴川	llwlltfnae	17	157	
藻琴川一藻琴川	llwllfna	136	192	
西 倉一西 倉				
計		4,429	10,451	

東 洋 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ16~18cmで腐植含量8~10%、土性はL~SLが主である。色は10YRで彩度1、明度2。粒状構造で発達程度は弱。ち密度は10内外で頗る疎。湿り乾。PH (P2O) 5.4内外。本層は旭・雌阿寒岳火山灰a層(略号As・Me-a層、以下同記)。下層への境界は平坦明瞭。

オ2層は厚さ10cm内外で腐植を含まない2%内外の浮石粗砂層である。色は10YRで彩度6、明度7。単粒状構造を呈し、ち密度は8内外で頗る疎。PH (H2O) 6.4内外。本層はカムイヌプリ火山灰5a層(M・Km-5a層)。下層との境界は概ね平坦明瞭。

オ3層は厚さ16cm内外で2層に分れ、上層7cm内外は腐植含量も多く、土性はL(触感)。色は10YRで彩度3、明度2。細粒状構造で発達程度弱。ち密度10で頗る疎、可塑性、粘着性中、湿めり半乾。下層は腐植含量やま少なく、土性はCL(触感)。色は10YRで彩度2、明度3、細粒状~粒状構造を呈し発達程度弱~中。ち密度15で疎。可塑性、粘着性中、湿めり半乾。両層混合した腐植含量は9%内外で土性はL。PH (H2O) 6.0内外。本層は両層とも不明火山灰層。下層との境界は概ね平坦明瞭。

オ4層は厚さ10cm内外で腐植含量は8%内外、土性はL。色は10YRで彩度1、明度3。発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度18内外で疎。可塑性、粘着性中、しめり半乾。PH (H2O) 6.1内外。本層は摩周火山灰f層(M-f層)のA層。下層への境界は概ね波状漸変。

オ5層は厚さ18cm内外で腐植を含み(4%内外)あり~なしのSL。色は2.5Yで彩度4、明度5。粗粒状構造を呈し発達程度甚だ弱。湿めり半乾。ち密度18で疎。PH (H2O) 6.1内外。本層はM-fのC層。下層との境界は概ね平坦明瞭。

オ6層は厚さ10cm内外で腐植含量6~8のL。色は10YRで彩度1、明度3。発達弱度の粗粒状~細塊状構造を呈し、ち密度19で中。可塑性、粘着性小、湿めり半乾。PH (H2O) 6.1内外。本層以下三層は洪積性の火山灰で上からA層、B層、C層。下層への境界は概ね波状漸変。

オ7層は厚さ15cm内外で腐植を欠くL。色は10YRで彩度6、明度5。細塊状構造を呈し、ち密度22で中。可塑性、粘着性小、湿めり半乾。PH (H2O) 6.2内外。下層への境界は概ね波状漸変。

オ8層は厚さ15cm内外で腐植を欠くSL。色は2.5Yで彩度3、明度5。盤状構造を呈し、ち密度30で頗る密。可塑性、粘着性小~なし、湿めり半乾。PH (H2O) 6.3内外。下層への境界は概ね

平坦明瞭。

112cm以下は第9、才10層で両層とも腐植を欠き土性はLiO~CL。色は7.5YRで彩度4、明度4。塊状構造を呈し、小孔に富み保水性が大きい。ち密度は15内外で疎。上層は粒径5~10mmの滞橙色腐朽礫及び粒径2~5mmの熔岩片を含み、下層は5~15cmの未風化円礫に富む。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村東洋 試坑 NO. 6

才1層	0~18cm	腐植に富む黒色(10YR $\frac{2}{1}$)のL、ち密度10で頗る疎、PH(H ₂ O) 5.4内外、調査時の湿り乾。境界平坦明瞭、本層はAs・Me-a層
才2層	18~28	腐植を含む黄褐(10YR $\frac{7}{6}$)のS、単粒構造を呈しち密度8で頗る疎、PH(H ₂ O) 6.4内外、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭、本層はM・Km-5a層
才3層	28~44	本層は2層に分れるが上層は灰褐(10YR $\frac{2}{3}$)、発達弱度の細粒状構造を呈しち密度10で頗る疎、下層は灰褐(10YR $\frac{3}{2}$)、細粒状構造を呈し、ち密度15で疎、下層は腐植含量少し少ないが両層合せて腐植に富むL PH(H ₂ O) 6.0、境界平坦明瞭、本層は不明火山灰層
才4層	44~54	腐植に富む黒色(10YR $\frac{3}{1}$)のL。発達弱度の細粒状構造、ち密度18で疎、PH(H ₂ O) 6.1、調査時の湿り半乾、境界波状漸変、本層はM-fのA層
才5層	54~72	腐植を含む黄褐(2.5Y $\frac{5}{4}$)のSL、粗粒状構造を呈し、ち密度18で疎、PH(H ₂ O) 6.1調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭、本層はM-fのC層
才6層	72~82	腐植に富む黒色(10YR $\frac{3}{1}$)のL、粗粒状構造を呈し、ち密度19で中、PH(H ₂ O) 6.1調査時の湿り半乾、境界波状漸変、本層以下洪積性火山灰層
才7層	82~97	腐植を欠く黄褐(2.5Y $\frac{5}{6}$)のL、細塊状構造を呈し、ち密度22で中、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
才8層	97~112	腐植を欠く灰色(2.5Y $\frac{5}{3}$)のSL、盤状構造を呈し、ち密度30で頗る密、PH(H ₂ O) 6.3、境界平坦明瞭
才9・10層	112~+	腐植を欠く黄褐(7.5YR $\frac{4}{4}$)のLiC/CL、塊状構造を呈し、小孔に富み保水性大、粒径5~10mmの腐朽礫、2~5mmの熔岩片、並びに下層は5~15cmの未風化円礫を含む

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0 ~ 18	3.6	34.8	29.6	29.7	5.9	L	5.25	1.11	4.7	9.0
2	18 ~ 28	1.4	90.8	4.4	2.9	1.9	S	1.32	0.10	13.2	2.2
3	28 ~ 44	11.6	38.4	22.6	32.8	6.2	L	5.87	0.43	13.7	10.1
4	44 ~ 54	13.0	32.6	18.9	38.3	10.2	L	5.22	0.47	11.1	9.0
5	54 ~ 72	8.5	53.9	16.9	22.3	6.9	SL	2.68	0.19	14.1	4.6
6	72 ~ 82	11.1	38.2	18.7	36.4	6.7	L	4.21	0.28	15.0	7.2
7	82 ~ 97	9.6	22.9	16.9	33.4	11.6	L	1.05	0.08	13.1	1.8
8	97 ~ 112	6.3	58.3	18.7	12.8	5.7	SL	0.53	0.06	8.8	1.0
9	112 ~ —	9.5	21.7	32.1	38.5	26.2	LiC	0.50	0.05	10.0	0.9
10	— ~ —	5.7	10.5	34.0	37.8	17.7	CL	0.18	0.01	18.0	0.3

層位	P H		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 mg/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.8	0.8	17.6	10.6	0.4	0.3	60	1.010	2.2
2	6.4	4.9	0.3	4.3	1.5	0.2	0	35	5.52	1.3
3	6.0	4.8	0.8	22.0	5.6	0.3	0.1	25	2.545	1.4
4	6.1	4.9	0.4	21.4	4.0	0.3	0.3	19	2.615	1.1
5	6.1	5.4	0.3	12.2	1.4	0.3	0.4	11	2.109	0.7
6	6.1	5.3	0.3	19.2	3.0	0.1	0.5	16	2.164	0.6
7	6.2	5.8	0.3	11.8	1.9	0.1	1.0	16	2.051	0.6
8	6.3	5.6	0	10.9	2.8	0.3	1.8	26	1.588	0.6
9	6.2	5.1	0.3	20.4	10.3	0.6	0.9	50	1.225	0.8
10	6.3	4.8	0.3	17.7	1.5	0.7	1.7	85	7.65	0.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似している統には山園統があるが、M・Km-5 a層が薄いため本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地形 標高180~340mの波状性丘陵~波状性高台地。

C 気候

オホーツクの気圧配置により、夏季冷涼に終始することも珍らしくなく、かつ、標高高いので気候の条件は悪くしばしば冷害を受ける。平均気温は5.9℃ 降雨量は850mm内外で少なく春先季節風が強いため風蝕も受ける。

D 植生及び利用状況

自然林はエゾマツ、トドマツ、シナ、イタヤ、シコロ、ナラ、カバ、アカダモ、クルミ、などが生育している。以前は穀藪経営が行なわれていたが、近來草地を主とする酪農に切り替えられている。

A 土壌区の特徴

この土壌区は東洋統に属する。土壌は膨軟、輕鬆な火山灰累積層からなり、通気透水性良好であるがその層序は $As \cdot Me-a$ 、 $M \cdot Km-5a$ 、不明火山灰、 $M-f$ 、洪積性火山灰の順に堆積している。概ね $As \cdot Me-a$ 層が作土層となっており、その厚さは $1.5 \sim 2.3$ cm で中庸であるが、有効土層の厚さは 1 m 以上で深い。ただ、 $M \cdot Km-5a$ 層は一般に腐植を含有しない未風化な浮石粗砂層で層厚は 10 cm 内外あり普通耕深の場合は作土直下に残存し、植生、とくに根菜類の通根性を阻害している。

本層はまた、物理性の他に化学性も悪く、保肥力、固定力は小さく、塩基含量も少ない。全層的に有効態磷酸含量は極めて少なく、かつ、下層は固定力の大きい土壌で苦土含量が少ない。

B 植生及び利用状況

耕地化されているところでは大部分牧草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

本地区は比較的高地に分布するため、気候冷涼で農期間短かく、豆類などの耐寒性の弱い作物はその被害を強くうける。また土壌は膨軟、輕鬆な火山灰土壌で春先の乾燥期に季節風が強いため一般畑作地では風蝕の被害をうける。これらが対策としては防風林の設置、被覆作物の栽培、適作物の選定等。即ち牧草をとり入れて協業化により大型機械の導入をはかり、酪農業に切り替えることが適切かと思われ、これから産出する堆肥、緑肥等を耕地に還元する。心土直下の不明火山灰層以下は磷酸吸収力が極めて強く、有効態磷酸含量も少ないから、磷酸質資材並びに苦土肥も合わせて導入し、心土肥培耕を行ないながら除々に深耕することが望まれる。

D 分布

北海道網走郡東藻琴村東洋

記載責任者 高橋市十郎

(北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

山 園 統

(1)土壌統の概説

A土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ $1.8 \sim 2.0$ cm、腐植含量は $7 \sim 10$ %、土性は SL である。色は $10YR$ 、彩度 3 、明度 3 。ち密度 10 内外で頗る疎、湿り乾。PH (H_2O) 5.3 内外、下層への境界は平坦明瞭。本層は $As \cdot Me-a$ 層及び $M \cdot Km-5a$ の混合層。

オ2層は厚さ 1.4 cm 内外、腐植含量は 8 % 内外、土性は L である。色は $10YR$ 、彩度 1 、明度 3 。粒状構造を呈し発達程度は弱い。ち密度は 20 内外で中、可塑性、粘着性小、湿り半乾、PH (H_2O) 5.7 内外、下層への境界は波状でやや明瞭。本層は不明火山灰層。尙粒径 $2 \sim 10$ μ 、色 $2.5Y 6/6$ 浮石礫を混入。

オ3層は厚さ $3.0 \sim 4.0$ cm、腐植を欠き礫を含む S 。色は $10YR$ 、彩度 8 、明度 5 。単粒構造を呈し、ち密度は 18 内外で疎。湿り半乾、PH (H_2O) 6.0 。下層への境界は概ね平坦明瞭。本層は $M-f$ 層。

オ4層以下は洪積性火山灰土で、暗褐～明褐色を呈する CL (解感)。発達弱度の粒状～細塊状構造を呈している。ち密度は $19 \sim 20$ で疎ないし中。可塑性、粘着性は中。湿り半乾。上層部は腐植

を含み、下層は腐朽礫を少量含む。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村山園 試坑 NO. 7B

才 1 層	0 ~ 18 cm	腐植に富む黒色 (10YR $\frac{3}{1}$) のSL、ち密度1.0で頗る疎、PH (H ₂ O) 5.3、調査時の湿り乾、境界平坦明瞭
才 2 層	18 ~ 32	腐植に富む灰褐 (10YR $\frac{3}{2}$) のL、発達弱度の粒状構造、ち密度2.0で中、PH (H ₂ O) 5.7、調査時の湿り半乾、境界波状や明瞭、本層は不明火山灰層、尙土層中に粒径2~1.0mm、まれに2.0mm色2.5Y 6/6の浮石礫を混入
才 3 層	32 ~ 70	腐植を欠き礫を含む黄褐 (10YR $\frac{5}{8}$) のS。単粒構造を呈し、ち密度1.8で疎、PH (H ₂ O) 6.0、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭 本層以下洪積性火山灰層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~18	4.3	—	48.4	27.9	19.4	4.3	SL	4.45	0.35	12.7	7.6
2	18~32	9.1	—	33.0	26.4	33.2	7.4	L	4.95	0.38	13.0	8.5
3	32~70	5.1	5	71.1	23.9	4.6	0.4	S	0.75	0.08	9.4	1.3

層位	PH		置換酸度 Y1	塩基置換容量 $\frac{me}{100g}$	置 換 性 塩 基 $\frac{me}{100g}$			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収係 数	有効態磷酸 $\frac{mg}{100g}$
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.3	4.7	0.8	17.2	10.4	0.4	0.8	60	947	33
2	5.7	4.9	0.4	17.7	7.3	0.1	0.4	41	2109	0
3	6.0	5.4	0.1	6.4	2.2	0.3	0.2	34	1330	0.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似の統としては東洋統があるが、本統に比較してM・Km-5a層が厚いため区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地形

標高100~380mの高範囲に渡る波状性丘陵及び波状性高台地に分布する。

C 気候

オホーツクの気圧配置により、年によつては夏季冷涼によることも珍らしくなく、かつ、標高の高い山麓地では気候条件が悪く、しばしば冷害をうける。年平均気温5.9℃、降雨量は850mm内外で少なく、春先季節風が強いため風蝕もうける。

D 植生及び利用状況

A 土壌区の特徴

本土壌区は山園統に属する。標高100～380mの広範囲に渡る。土壌は前統同様の累積層からなるが、M・Km-5a層がやゝ薄く耕地では作土中に混合されているところが多い。オ1層の層厚は18cm内外であるが、次層の不明火灰層も同様に腐植に富むため、これも加えて表土層は30cm内外と厚く、有効土層も1m以上で深い。透水性良好で過干のおそれがある。保肥力は中、固定力は作土は小さいが心土層が大きく、有効態磷酸含量は一般に少なく、塩基では苦土に欠けている。

B 植生及び利用状況

半ば耕地化されており、牧草が主体で、一部穀類及びハツカ等が栽培されている。未耕地ではナラ、カバ、シナ、エンジュ等の樹木が疎生し下草にはササが密生している。

C 地力保全上の問題点

本地区は標高の高い山間奥地に存在しているため、冷涼で農期間短かく、豆類など耐寒性の乏しい作物は冷寒の被害を強く受ける。また強風地で、加えて土壌は膨軟、軽鬆な火山灰のため一般の畑作地では風蝕の被害が大きく、特に春先が著しい。

このような対策には防風林の設置、被覆作物の栽培、適性作物の選択、即ち、牧草を取り入れて、協同化により大型機械の導入をはかり酪農業に切り替える方が適切かと思われる。これから堆厩肥・緑肥を耕地に還元、心土層は磷酸吸収力が極めて強く有効態磷酸含量も殆んどないので、磷酸質資材及び苦土肥を投入して、心土耕あるいは心土肥培耕を行いながら除々に深耕することが望まれる。

D 分布

北海道網走郡東藻琴村山園、福富

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

未 広 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

オ1層は厚さ18～20cm、腐植含量は6～8%、土性はSLである。色は10YR、彩度1、明度3である。発達程度弱の粒状構造でち密度10内外で頗る疎。可塑性、粘着性弱。湿り半乾、PH(H₂O) 5.9～6.1。本層はAs・Me-a層。本層直下には厚さ2cm内外、色は10YR⁷/₄の浮石粗砂層(M・Km-5a層)が存在する。下層への境界は平坦明瞭。

オ2層は厚さ17～20cm、腐植含量は7～9%、土性はL～SLである。色は10YR、彩度1、明度2である。発達弱度の粒状構造で、ち密度は15内外で疎。可塑性、粘着性は中～弱。湿り半乾、PH(H₂O) 6.5～6.1。本層から以下3層はM-f層。下層への境界は波状漸変。

オ3層は厚さ18～25cm内外、腐植含量は3%内外以下で土性はSL～L。色は10YR～2.5Yで彩度4、明度4である。粒径2～5mmの浮石及び熔岩片混入。発達程度弱の粒状構造で、ち密度17～20で疎～中、可塑性、粘着性弱、湿り半乾、PH(H₂O) 6.3～6.9、下層への境界は平坦でやゝ明瞭。本層の下層には厚さ10cm内外、色は5Y、彩度2、明度5の熔岩片及び浮石粒よりなる浮石粗砂層が存在する。単粒構造を呈し、ち密度は20内外で中。下層への境界は波

状明瞭。

才 4 層は厚さ 1 2 cm 内外、腐植を含む～富む。土性は L。色は 1 0 YR、彩度 2、明度 3。発達程度弱の粒状構造を呈し、ち密度は 1 5 で疎。可塑性、粘着性は小、湿り半乾、PH (H 2 O) 7.0 内外、下層への境界は概ね波状漸変。本層以下 2 層は洪積性火山灰層。

才 5 層は厚さ 2 0 cm 内外、腐植を欠き土性は SiCL。色は 1 0 YR 彩度 4、明度 5。発達程度中～弱の粒状～細塊状構造を呈し、ち密度は 1 9 で中、可塑性、粘着性は中、湿り半乾。下層への境界は波状漸変。

才 6 層は厚さ 2 0 cm 内外、腐植を欠き土性は LiC。色は 7.5 YR、彩度 4、明度 5。発達程度中～弱の細塊状構造を呈し、ち密度は 2 2 で中、可塑性、粘着性大。湿り湿。PH (H 2 O) 6.5 本層は粘質な褐色の洪積性火山灰で、腐朽礫及び 2～5 mm の浮石を混入している。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村末広 試坑 NO. 13

才 1 層	0～18cm	腐植に富む黒色 (10YR $\frac{3}{1}$) の SL。発達程度弱の粒状構造、ち密度 10 で頗る疎、PH (H 2 O) 6.0、調査時の湿り半乾、本層は As・Me-a 層、本層直下 18～20 腐植を欠く黄褐 (10YR $\frac{7}{4}$) の浮石粗砂層、M・Km-5a 層
才 2 層	20～40	腐植に富む黒色 (10YR $\frac{2}{1}$) の L、発達弱度の粒状構造でち密度は 15 で疎、PH (H 2 O) 6.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変、本層以下三層は M-f 層
才 3 層	40～65	腐植を含む黄褐 (10YR $\frac{4}{4}$) の SL、発達弱度の粒状構造でち密度は 20 で中、PH (H 2 O) 6.9、調査時の湿り半乾、本層には粒径 2～5 mm の浮石及び熔岩片を混入。本層以下 10cm は腐植を欠く灰色 (5Y $\frac{5}{2}$) の浮石砂層、単粒状構造でち密度は 20 で中、境界波状明瞭
才 4 層	75～87	腐植を含む灰褐 (10YR $\frac{3}{2}$) の L、発達弱度の粒状構造を呈し、ち密度は 15 で疎、PH (H 2 O) 7.0、調査時の湿り半乾、境界は概ね波状漸変、本層以下 2 層は洪積性火山灰
才 5 層	87～107	腐植を欠く黄褐 (10YR $\frac{4}{4}$) の SiCL、発達程度中の細塊状構造を呈し、ち密度は 19 で中、PH (H 2 O) 6.5、調査時の湿り半乾境界波状漸変
才 6 層	107～137	腐植を欠く黄褐 (7.5YR $\frac{4}{5}$) の LiC、発達程度中の細塊状構造を呈し小孔に富む、ち密度 22 で中、PH (H 2 O) 6.5、調査時の湿り湿、本層は粘質滞褐色の洪積性火山灰

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.3	39.9	25.4	27.2	7.5	SL	95.9	2.16	4.31	0.38	11.3	7.4
2	20~40	8.7	40.4	20.6	29.3	9.7	L	104.5	2.23	4.57	0.37	12.4	7.9
3	40~65	6.7	40.9	28.2	22.6	8.3	SL	114.0	2.43	1.71	0.14	12.2	3.0
4	75~87	7.8	27.9	27.1	35.1	9.9	L	118.1	2.37	2.41	0.08	30.1	4.1
5	87~107	11.0	8.7	20.7	48.2	22.4	SiCL	122.9	2.68	1.20	0.10	12.0	2.0
6	107~137	10.0	8.7	18.5	43.1	29.7	LiC	145.2	2.73	0.56	0.04	14.0	1.0

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.0	5.0	0.2	19.0	12.1	0.4	0.3	63	1,268	1.9
2	6.5	5.2	0.1	21.9	12.1	0.8	1.3	55	2,025	0.6
3	6.9	5.6	6.1	9.5	2.6	0.3	2.1	27	1,577	0.7
4	7.0	5.4	0.1	16.1	6.0	0.6	3.9	37	1,685	0.5
5	6.5	5.2	0.1	20.0	7.3	1.1	2.6	37	1,788	0.5
6	6.5	4.9	0.2	20.9	11.0	2.2	1.7	53	1,190	1.4

A-2 他の土壌統との関係

本土壌統は本調査地区内の略中央部に分布し、本統に隣接、類似する統としては山園統があるが本統はM・Km-5a層直下の不明火山灰層及びM-f層直下の滞黄色の洪積世火山灰の欠除あるいは不規則な点で区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地形 概ね平坦な河岸段丘

C 気候

オホーツクの気圧配置によつては夏季冷涼になることもあり、また、春先季節風が強い。年平均気温 5.9℃、年平均降水量 850 mm 内外。

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されて、てん菜、馬鈴薯、ハツカ、豆類、飼料作物等が栽培されて、わずかに残る未耕地にはアカダモ、イタヤ、ナラ等の樹木、下草にササが密生している。

E 農業上の留意事項

春先強風のため風蝕をうけ、表土、種子が飛散し、その被害は甚大である。このことが地力低下の一因にもなつているので、風蝕防止対策が望まれる。

F 分布 北海道網走郡東藻琴村 末広及び千草、西倉の一部

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和44年3月31日

(2) 土 壌 統 の 細 分

① 土 壌 区 一 覧

D 分布 北海道網走郡東藻琴村、末広及び千草、西倉の一部
記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)
日付 昭和44年3月31日

旭 台 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

才1層は厚さ20cm内外、腐植含量は6~8%、土性はSLである。色は10YR、彩度1、明度3である。発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度は17で疎。可塑性、粘着性は0~小。湿り乾、PH(H₂O) 5.9内外、下層への境界は平坦や明瞭。本層はAs・Me-a層、M・Km-5a層の混合層。

才2層は厚さ10cm内外、腐植含量は3~8%、土性はL~SLである。色は10YR、彩度6、明度5である。発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度は23で中。可塑性、粘着性は小。湿り乾、PH(H₂O) 6.2内外、下層への境界は波状や明瞭。本層はM-f層。本層以下にはM-f層から次層の滞褐色粘質な洪積性火山灰層への漸化層でM-f層や不明火山灰等の混合した腐植を欠く色は10YR、彩度6、明度4、CL(触感)層が20cm内外の厚さに、更に下層は滞褐色粘質な火山灰層で、腐植を欠き土性はC(触感)、色は7.5YR、彩度8、明度5である。発達弱度の塊状構造を呈し、ち密度はいずれも16~21で疎~中。可塑性、粘着性は中~大である。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村旭台 試坑NO. 13B

才1層	0~20cm	腐植に富む黒色(10YR ³ / ₁)のSL、発達弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿り乾、境界平坦や明瞭、本層はAs・Me-a層、M・Km、5a層の混合層
才2層	20~30	腐植を含む黄褐(10YR ⁵ / ₆)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度23で中、PH(H ₂ O) 6.2、調査時の湿り乾、本層はM-f層 本層以下は30~50cmは腐植を欠く黄褐(10YR ⁴ / ₆)のCL(触感)、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度20で中、本層はM-f層、不明火山灰層等多くの火山灰の混合層、50~75cmは腐植を欠く黄褐(7.5YR ⁵ / ₈)のC(触感)、ち密度21で中、本層は滞褐色の粘質な洪積性火山灰層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~20	7.2	52.3	15.2	25.8	6.7	SL	3.99	0.35	11.4	6.9
2	20~30	9.2	43.2	19.4	28.9	8.5	L	2.26	0.18	12.6	3.9

層位	PH		置換酸 度 Y1	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	0.5	0.5	18.4	9.9	0.4	0.4	5.4	1.627	1.5
2	6.2	5.3	0.4	13.6	3.6	0.3	0.6	2.6	2.002	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、千草統及び明生統がある。表層As・Me-a層、M・Km-5a層の被覆は同様であるが、それ以下の層の母材が多少異なる。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地 形 標高100m内外、傾斜2~5度の波状性丘陵~高台地

C 気 候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、また、春先強い季節風のため風蝕防止対策が望まれる。年平均気温5.9℃、年平均降水量850mm内外。

D 植生及び利用状況

耕地はてん菜、馬鈴薯、ハツカ、豆類、麦類、飼料作物等が栽培され、未耕地にはアカダモ、ナラ、イタヤ等の樹木が生育し、下草にはササが密生している。

E 農業上の留意事項

本土壌統は比較的標高も高いうえ、土壌が非常に膨軟、輕鬆な土壌で、風蝕のおそれが多いので風蝕防止対策が望まれる。

F 分 布 北海道網走郡東藻琴村旭台

調査及び記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土 壌 統 の 細 分

① 土 壌 区 一 覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
旭台 - 旭台	Melt(w) fns

② 土 壌 区 別 説 明

旭台	—	旭台
----	---	----

千 草 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～18cm、腐植含量は6～8%、土性はSLである。色は10YR、彩度1、明度3である。発達弱度の細粒状構造を呈し、小孔に富む、ち密度1.5内外で疎、可塑性、粘着性はなし～小。湿めり半乾、PH(H₂O)5.7、下層への境界は平坦明瞭。本層はAs。Me-a層、M。Km-5 a層の混合層である。本層直下には更に3cm内外の厚さにM。Km-5 a層が存在する。続いて、その下部には5cm内外の厚さに腐植に富む黒褐(10YR 3/2)のCL(触感)が存在する。

第2層は厚さ20cm内外、腐植を欠き、土性はCLである。色は10YR、彩度6、明度4、細粒状構造を呈し、小孔に富む、ち密度は1.2で疎、可塑性、粘着性は小、湿めり半乾、PH(H₂O)5.3、下層への境界は波状漸変。

第3層は厚さ20cm内外、腐植を欠き、土性はLである。色は10YR、彩度6、明度5、細塊状構造を呈し、小孔に富む、ち密度は1.8で疎、可塑性、粘着性は小、湿めり半乾、PH(H₂O)6.4、下層への境界は平坦や明瞭。

第4層は厚さ30cm内外、腐植を欠き、土性はCLである。色は7.5YR、彩度6、明度4、発達程度中の細塊状構造を呈し、ち密度は2.5で密、可塑性、粘着性は大、湿めり半乾、PH(H₂O)6.3。本層の下部に粒径2～10mmの橙色浮石を少量混入している。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡東藻琴村千草 試坑No.9

第1層	0～17cm	腐植に富む黒色(10YR 3/1)のSL、ち密度1.5で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿めり半乾、境界平坦明瞭、本層はAs。Me-a、M。Km-5 aの混合層である、本層直下には更に2cm内外の厚さにM。Km-5 aの浮石粗砂層、続いて5cm内外の厚さに腐植に富む灰褐(10YR 3/2)のCL(触感)層が存在する。
第2層	25～45	腐植を欠く黄褐(10YR 4/6)のCL、発達弱度の細粒状構造で小孔に富む、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿めり半乾、境界波状漸変
第3層	45～65	腐植を含む黄褐(10YR 5/6)のL、発達弱度の細塊状構造を呈し、小孔に富む。ち密度1.8で疎、PH(H ₂ O)6.4、調査時の湿めり半乾、境界平坦や明瞭
第4層	65～95	腐植を欠く黄褐(7.5YR 4/6)のCL、発達程度中の細塊状構造を呈し、ち密度2.5で密、PH(H ₂ O)6.3、調査時の湿めり半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~17	4.7	39.4	29.0	25.0	6.6	SL	3.69	0.29	12.7	6.4
2	25~45	8.6	22.0	17.3	40.7	20.0	CL	0.79	0.06	13.2	1.3
3	45~65	10.5	22.7	28.2	34.9	14.2	L	1.48	0.14	10.6	2.6
4	65~95	9.6	20.7	19.1	37.5	22.7	CL	0.58	0.03	19.3	1.0

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcℓ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	5.1	0.3	17.1	13.2	0.4	1.0	77	1.105	6.7
2	5.3	4.1	0.3	21.3	9.5	1.5	0.2	46	1.247	0.6
3	6.4	5.6	0.1	13.8	3.5	0.6	0.5	25	1.716	0.2
4	6.3	5.1	0.3	16.8	5.5	0.4	2.8	33	1.365	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、旭台統及明生統があり、表層のAs、Me-a、M、Km-5a層の被覆は同様であるが、それ以下の層の母材に多少の異いがある。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地形 標高60~100m、傾斜3~5°の波状性丘陵~波状性台地

C 気候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、春先季節風が強い。年平均気温5.9℃、年平均降水量850mm内外。

D 植生及び利用状況

半ば耕作され、てん菜、馬鈴薯、豆類、麦類等が栽培されており、未耕地にはナラ、カシワ、イタヤ、シコロ、シラカバ等の樹木が成育している。

E 農業上の留意事項

春先季節風により風蝕が起るから、その防止対策が望まれる。

F 分布 北海道網走郡東藻琴村千草

調査及び記録責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
千草-千草	IIIeII(t)wnfs

明 生 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17～22cm、腐植含量は4～8%、土性はSLである。色は10YR～7.5YR、彩度2、明度3である。礫がなくち密度～12で頗る疎～疎、湿めり半乾。PH(H₂O)6.1～6.3
下層への境界は平坦明瞭。本層はAs・Me-a、M・Km-5a層の混合層。

第2層は厚さ23～25cm、腐植含量は3%内外、土性はL～SiCLである。色は10YR～7.5YR、彩度6、明度5である。礫なく発達程度甚だ弱の粒状構造を呈し、中、小孔に富む。ち密度15～18で疎、可塑性、粘着性弱く湿めり半乾。PH(H₂O)6.3～6.5、下層への境界は波状漸変である。

第3層は厚さ22～30cm内外、腐植を欠くCLが主体である。色は10YR～7.5YR、採度6、明度4～5である。発達弱度の塊状～塊状構造を呈し、中、小孔は中。可塑性、粘着性は中。ち密度は22～24で中、湿めり半乾、PH(H₂O)6.2～6.7、下層への境界は平坦明瞭である。本層直下には5cm内外の厚さに腐植を欠き、礫を含む灰褐(5YR 4/2)のSL層(触感)が存在する。

第4層は厚さ25cm内外、腐植を欠くL～SiCLである。色は10YR及び7.5YRの混合、彩度6、明度は6～7である。発達程度は甚弱い細塊状構造を呈し、小孔は中程度、ち密度は18～22で疎～中である。可塑性、粘着性は小である。湿めり半乾、PH(H₂O)6.7内外。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡東藻琴村明生、大進 試坑No.12

第1層	0～18cm	腐植に富む灰褐(7.5YR 3/2)のSL、ち密度9～12で頗る疎～疎、PH(H ₂ O)6.1 調査時の湿めり半乾、境界平坦明瞭、本層はAs・Me-a、M・Km-5a層の混合層
第2層	18～43	腐植を含む黄褐(7.5YR 5/6)のSiCL、発達甚弱度の粒状構造、中、小孔に富む、ち密度17～18で疎、PH(H ₂ O)6.5内外、調査時の湿めり半乾、境界波状漸変
第3層	43～65	腐植を欠く黄褐(10YR 5/6)のCL、発達弱度の塊状構造を呈し、中、小孔は中、ち密度22～24で中、PH(H ₂ O)6.7内外、調査時の湿めり半乾、境界平坦明瞭、本層直下には5cm内外の厚さに腐植を欠き礫を含む灰色(5Y 4/2)のSL(触感)層が存在する。礫は2～5mm径の黑色岩片

第4層	70~95	腐植を欠く黄褐(10YR ^{6/6})及び黄褐(10YR ^{7/6})の混合層でSiCl 発達甚弱度の塊状構造で中小孔中、ち密度1.8~2.0で疎~中、PH (H ₂ O) 6.7内外、調査時の湿り半乾
-----	-------	--

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	5.1	37.8	33.5	23.2	5.5	SL	109.9	2.55	3.57	0.28	12.8	6.1
2	18~43	11.7	6.5	26.3	45.1	22.1	SiCL	97.1	2.64	1.99	0.21	9.5	3.4
3	43~65	9.6	5.5	37.3	35.2	22.0	CL	106.8	2.65	0.72	0.08	9.0	1.2
4	70~95	9.1	3.4	30.3	50.5	15.8	SiCL	111.5	2.30	—	—	—	—

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	6.1	5.3	0.3	17.4	12.5	0.2	0.6	7.2	1.285	3.5
2	6.5	5.4	0.3	17.4	8.0	0.3	0.5	4.5	2.003	0.6
3	6.7	5.6	0.3	13.9	5.9	0.4	0.4	4.2	1.747	0.2
4	6.7	5.4	0.1	17.3	9.2	1.1	1.6	5.3	1.309	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては、旭台統、千草統等があり、表層のAs-Me-a、M₁km-5a層の被覆は同様であるが、それ以下の母材の違いによつて区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪水

B 地形 標高70~120mの波状性高台地~波状性丘陵地

C 気 候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、春先季節風が強い。年平均気温5.9℃、年平均降水量850mm内外。

D 植生及び利用状況

耕地にはてん菜、馬鈴薯、ハッカ、豆類、麦類、飼料作物等が栽培され未耕地にはカンワ、イタヤ、ナラ等の樹木が生育している。

E 農業上の留意事項

春先季節風により風蝕を受けるので風蝕防止対策が望まれる。

F 分 布 北海道網走郡東藻琴村明生、大進

調査及び記載責任者 高 橋 市 十 郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
明生一明生	III e II t(w) fn

② 土壤区別説明

明 生 一 明 生

示性分級式（畑）

土	鵬表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	障	災
産土	耘土土	土地	然	層分換	" "	効	害理	冠す
力土の	ののの	風の	水の	潤肥肥	塩の	石苦加	磷	害質的
可の層	磔	粘土	水の	潤肥肥	定塩	基	灰土里	酸要
能の	難	土着硬	乾	沃	状豊	含	" "	" "
性厚の	含	性性	性性	度	力力	態	量	素度
等深	性性	性性	度	度	力力	態	量	素度
級さ	量易	性性	性性	度	度	力力	態	量
t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> III 1 1 1 (II) 1 1 (2) 2 2 2 1 3 1 2 1 1 1 1 1 1 (2) --- III 2 1 3 </div>								
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 簡略分級式 III e t(w) f n </div>								

A 土壤区の特徴

本土壤区は明生統に属する。表土は17～22cm内外で中庸で、有効土層は台地の部分は1m以上で深い傾斜の部分は50cm以内より浮石磔が多く含まれて、有効土層は浅くなる。表土は粗粒質で粘着性は小さいが、心土層以下は中粒質となり、粘着性は中程度である。透水性は良好で過干のおそれがある。保肥力は中、固定力は作土は小、心土層は大土層の塩基状態は略中庸で、自然肥沃度は中庸。有効態磷酸含量は作土中庸、心土層以下は極めて少ない。置換性塩基含量は苦土が少ない。

B 植生及び利用状況

耕地化は半ば以下で、てん菜、馬鈴薯、ハッカ、豆類、麦類、飼料作物等が栽培されている。未耕地にはカシワ、イタヤ、ナラ等の樹木が生育している。

C 地力保全上の問題点

台地物は傾斜は比較的少ないが、膨軟、輕鬆は土壤で風蝕の起り易い土壤であり春先季節風が強いので風蝕防止対策が必要である。また傾斜地は侵蝕も起るからこの対策も望まれる。

D 分布

北海道網走郡東藻琴村明生、大進
 記載責任者 高橋 市十郎（北海道立中央農業試験場）
 年 月 日 昭和44年3月31日

広 栄 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~17cm、腐植含量は8~10%内外、土性は概ねSLである。色は10YR、彩度1~3、明度1である。ち密度12~18で疎で、湿めり半乾~湿。

PH(H₂O) 5.5~6.2内外の本層はAs・Me-a層で、未耕地や作土の薄いところでは本層直下にM・Km-5a層の浮石粗砂層の薄層が存在する。下層への境界は平坦明瞭。

第2層は厚さ13cm内外、腐植含量9%内外で部分的に凹地で湿性の強いところでは20%内外にも及ぶ。土性はLである。色は10YR、彩度1~2、明度3である。

発達弱~中の細粒構造を呈し、ち密度は15内外で疎、可塑性、粘着性は中、湿めり半乾~湿。

PH(H₂O) 6.0内外。下層への境界は波状明瞭である。本層までを表土層とする。尚本層は不明火山灰層かと思はれる。

第3層はM-f層で厚さ40cm内外を有して三層に分かれる。以下いずれも触感で、上層より腐植を含む~富むL(2.5Y⁴/₄)、礫を含むS(2.5Y⁴/₃)、腐植を欠くSL(2.5Y⁵/₄)で構造は発達弱度の細粒状~粒状構造を呈し、ち密度は17~22で疎~中である。下層への境界は平坦明瞭。

第4層以下は屈斜路軽石流堆石物で、上部15cm内外は腐植に富む黒褐(10YR³/₁)のCL(触感以下同じ)、次層以下は礫に富む褐(10YR⁴/₆)のCL。構造はいずれも発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度15内外で疎、可塑性、粘着性は中である。礫は腐朽浮石で径1~3cm。やゝ湿性を帯び保水性に富んでいる。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村広栄 試坑No.13E

第1層	0~15cm	腐植に富む黒(10YR ¹ / ₁)のSL、ち密度12で疎、PH(H ₂ O)5.5内外、調査時の湿めり半乾~やゝ湿、境界平坦明瞭、本層はAs・Me-a、M・Km-5aの混合層
第2層	15~28	腐植に頗る富む黒色(10YR ³ / ₁)のL、発達程度弱~中の細粒状構造、ち密度15で疎、可塑性、粘着性中、PH(H ₂ O)6.0内外、調査時の湿めり半乾~やゝ湿、境界波状明瞭
第3層	28~65	本層はM-f層と思われるので三層に分かれ、上層より腐植に富む黄褐(2.5Y ⁴ / ₄)のL、次層は腐植を欠き礫を含む灰色(2.5Y ⁴ / ₃)のS、下層は腐植を欠く黄褐(2.5Y ⁵ / ₄)のSL(いずれも触感)で構造はいずれも発達弱度の細粒状~粒状構造を呈し、ち密度は17~22で下層程堅くなる。
第4層	65~	本層以下は屈斜路浮石流堆積物である。上部15cm内外は腐植に富む黒色(10YR ³ / ₁)のCL(触感以下同じ)。次層以下は礫に富む黄褐(10YR ⁴ / ₆)のCL。構造はいずれも発達弱度の細粒状構造を呈してち密度は

15内外で疎、礫は径1~3cmの腐植礫でやゝ湿性を帯び保水性に富んでいる。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	4.8	49.8	24.1	19.5	6.6	SL	5.19	0.54	9.6	8.9
2	15~28	11.7	29.6	32.7	28.3	9.4	L	9.40	0.79	12.1	18.3

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容 me/100g	置換性塩 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.5	5.1	0.5	27.3	23.3	0.6	0.9	85	1.405	6.7
2	6.0	5.3	0.5	44.6	26.4	1.4	0.4	59	2.375	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては山園統があるが、本統は地形的に山間にある小河川沿いの緩傾斜地をいしはだるみにあり、やゝ湿性を呈して心土層に腐植の集積が多いことで区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/洪積

B 地形 標高80~200mの山間にある小河川沿いの緩傾斜ないしだるみ

C 気候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、春先季節風が強い。年平均気温5.9℃、年平均降水量850mm内外。

D 植生及び利用状況

半ば以上耕地化され、てん菜、馬鈴薯、ハッカ、麦類、飼料作物等が栽培されている。未耕地にはアカダモ、クルミ等の樹木が疎生している。

E 農業上の留意事項

基盤の浮石礫層が80cm内外より出現し、山間の小河沿にあるだるみのためやゝ湿性を帯びており、時期的には甚だしくなる恐れがあるから排水対策が必要である。

F 分布 北海道網走郡東藻琴村広栄

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
広 栄	ll d w s e

② 土壤区別説明

広 栄 一 広 栄

示性分級式(畑)

土	農表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
産土	土土	土土	然	層分換	" "	効	害理	冠す	斜	水風
力土	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの
可の層	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの
能の層	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの	のの
性厚	含	難	粘土	沃	状豊含	" "	有害	危	傾方	蝕蝕
等	深	性性	性性	力力	態態	" "	素度	無性	度度	斜向斜
級さ	量易	湿	度	否	性	性	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
II										
簡略分級式	:II dwse									

A 土壤区の等徴

本土壤区は広栄統に属する。表土の厚さは30cm内外で、厚いが、基盤の屈斜路軽石流堆積物による礫層が80cm内外より出現し、有効土層は中庸である。表土は粗粒質で可塑性、粘着性は小。透水性は65m内外までは良好であるが、それ以下は保水性が大きいため、全体としてやゝ湿性を呈している。保肥力は大きく、固定力は作土は小さいが、心土層は大きく、土層の塩基状態は良である。有効態磷酸含量は中で置換性塩基は苦土が中庸で他の塩基は多い。

B 植生及び利用状況

半ば以上耕地化され、てん菜、馬鈴薯、ハッカ、麦類、飼料作物等が栽培されている。未耕地にはアカダモ、クルミなどの樹木が疎生している。

C 地力保全上の問題点

山間の河川沿いの凹地に分布し、やゝ湿性を帯びていることから、心土層に腐植の集積が多く、表土も30cm内外と厚い。一部には湿性の程度が著しく、排水の実施が必要である。排水の完備後は除々に深耕して行くことが望ましいがその場合、心土層は磷酸吸収力の極めて大きい土壌であるから磷酸資質材を導入して心土肥培耕をしても効果は大きいと思われる。

D 分布 北海道網走郡東藻琴村広栄

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

東 藻 琴 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm内外、腐植含量6~9%、土性はL~SLである。色は10YR、彩度2、明度2である。ち密度は15~22で疎~中。湿めり半乾、PH(H₂O)5.3~5.9。下層への境界は平坦明瞭、本層はAs. Me-a層。本層直下には厚さ4cm内外の厚さにM. Km-5a層が存在する。色は黄橙(10YR⁶/₄)で単粒構造を呈し、ち密度は18で疎、下層への境界は平坦明瞭。

第2層以下は屈斜路浮石流堆積物が二次的に水積したもので、本層は厚さ7cm内外、腐植含量は8~10%、土性はLiCである。色は10YR、彩度1、明度1である。発達弱度の細粒状構造を呈し、小孔は小~中、ち密度20内外で中、可そ性、粘着性やゝ大。湿めり乾。PH(H₂O)5.3~5.9。下層への境界平坦やゝ明瞭。本層以下まれに粒径5~10cmの未風化円礫を混在する。

第3層は厚さ20cm内外で、上部4cm内外は腐植を欠くにぶい黄褐(10YR⁶/₃)のC(触感)である。発達弱度の細塊状構造を呈し、孔隙は少ない。ち密度21で中。鉄管、鉄膜を含む。下部は腐植を欠く灰褐(10YR⁷/₁)で、単一ないしは柱状構造を呈して孔隙は少ない。ち密度は25で密、可そ性、粘着性は中~大、鉄管、鉄膜含む。透水性は不良で、湿めりは半乾。両層混合した土性はSiCLである。PH(H₂O)5.8~6.0。下層への境界は波状漸変である。

第4層は厚さ15cm内外、腐植を欠き、土性はLiCである。色は2.5Y、彩度3、明度7である。単一ないしは柱状構造を呈し、孔隙は少ない。ち密度は29で極密、可そ性、粘着性は中~大。透水性は不良で、鉄管、鉄膜を含む。湿めりは半乾、PH(H₂O)5.9~6.0である。本層以下は同色で類似の土性を示すが、柱状~板状構造を呈して、ち密度は33で極密、透水性は不良で鉄管、鉄膜、鉄錆を含む。鉄錆斑の色は7.5YR⁵/₈。また50cm以下にグライ層の出現するところが多い。湿めり半乾~やゝ湿。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡東藻琴村市街地周辺 試坑No.81

第1層	0~19cm	腐植に富む黒色(10YR ² / ₂)のCL。ち密度17~22で疎~中、PH(H ₂ O)5.4、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭、本層はAs. Me-a層、本層直下19~23cmはM. Km-5a層、ち密度18で疎
第2層	23~30	腐植に富む黒(10Y ¹ / ₁)のLiC、発達弱度の細粒状構造で、小孔は小~中、ち密度20内外で中、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿めり乾、本層以下は屈斜路浮石流堆積物の水による二次堆積物で、まれに粒径5~10cmの未風化円礫を混在、境界平坦やゝ明瞭
第3層	30~50	上部4cm内外はにぶい黄褐(10YR ⁶ / ₃)のC(触感)、発達弱度の細塊状構造、ち密度21で中、下部は灰褐(10YR ⁷ / ₁)、単一ないしは柱状構造、ち密度25で密、本層以下鉄管、鉄膜含む、湿めり半乾、両層混合した

		土性 SiCL、PH(H ₂ O) 5.8、境界波状漸変
第4層	50~	腐植を欠く灰色(2.5 Y7 ₃)の LiC、上部15cm内外は単一ないしは柱状構造、ち密度2.9で頗る密、PH(H ₂ O) 5.9、調査時の湿めり半乾65cm以下は同色で類似の土性を示すが柱状~板状構造を呈して、ち密度は3.3で頗る密、透水性不良で、調査時の湿めりは半乾~やゝ湿、尙50cm以下にグライ層の出現するところが多い。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	3.7	33.7	15.0	30.7	20.6	CL	97.0	2.40	5.07	0.45	11.3	8.7
2	23~30	10.7	9.1	18.0	31.9	41.0	LiC	107.4	2.16	5.23	0.59	8.9	9.0
3	30~50	4.1	8.9	19.2	49.4	22.5	SiCL	139.3	2.32	0.91	0.07	13.0	1.6
4	50~65	3.4	3.7	25.5	41.7	29.1	LiC	172.9	2.49	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係 数	有効態燐酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.4	4.6	2.0	17.9	9.5	0.4	0.4	5.3	8.84	13.5
2	5.3	4.4	2.8	39.4	11.0	0.4	0.2	2.8	1.947	1.3
3	5.8	4.4	1.3	11.2	4.4	0.4	0.4	3.9	2.35	3.2
4	4.9	3.8	6.0	17.7	8.8	1.8	0.1	5.0	5.00	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する主な統としては、藻琴川統、西倉統などがあり、本統を含めてこれらの統はいずれも表層は As。Me-a、M。Km-5a 層より成っているが、それぞれ下層の母材の違いにより分けられる。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 標高40~60m内外の略平坦で一部緩傾斜を有する沖積地

C 気候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、また、春先季節風が強い。年平均気温 5.9℃、年平均降水量 850mm 内外。

D 植生及び利用状況

殆んどが耕地化され、畑地にはハッカ、豆類、てん菜、馬鈴薯、飼料作物等が栽培される他、一部には水田がつけられている。僅かに残る未耕地にはヤチダモ、ハンノキ、シラカバ等が生育している。

E 農業上の留意事項

下層土は極めて堅密で透水性不良で、かつ、低平地のため降雨時には過湿になるおそれが多い。

F 分布 北海道網走郡東藻琴村市街地周辺

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

C 地力保全上の問題点

過湿対策として排水施設を要する。下層土は極めて堅密だが、作土層も堅く、心土層の磷酸吸収力が強く、有効態磷酸含量の少ないところでは磷酸資質材を導入して心土耕を、その他は有機物を投入しながら除々に深耕し、極堅密層が浅く出現するところはバンブレーカーを施工する。一般に磷酸、苦土含量が少ないからその増施が望まれる。

D 分布 北海道網走郡東藻琴村市街周辺

記載責任者 高橋市十郎（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

チブサ藻琴川統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cm、腐植含量は6～12%、土性はSLである。色は10YR、彩度1、明度2～3である。ち密度は10～15で疎、湿めり半乾。PH(H₂O) 5.2～5.9。下層への境界は平坦明瞭である。本層はAs・Me-a層及びM・Km-5a層の混合層。

第2層は厚さ30～40cm内外、腐植含量は概ね12～20%内外、土性はSiL～SLである。色は10YR、彩度1、明度1である。発達弱度の細粒状構造を呈し、中、小孔は中程度、ち密度12～15内外で疎。可塑性中、粘着性やゝ大で透水性はやゝ不良である。湿めりやゝ湿。PH(H₂O) 6.1～6.3。下層への境界平坦やゝ明瞭。本層以下沖積土壌。

第3層は厚さ25cm内外、腐植含量は概ね2～3%、土性はSLである。色は2.5Y、彩度4、明度4である。発達弱度の粒状構造で中、小孔に富む。ち密度は20で中、可塑性小で透水性はやゝ不良である。湿めりやゝ湿。PH(H₂O) 6.3内外、下層への境界は平坦やゝ明瞭である。本層以下70～90cmは灰(5Y₄)のS、90～110cmは腐植に富む黒(10YR₄)のC(いずれも触感)ち密度はいずれも20内外で中。透水性は不良～甚不良で90cm以下には鉄銹斑を含む。湿めりはやゝ湿。

第1層	0～15cm	腐植に頗る富む黒色(10YR ₂)のSL、ち密度10で頗る疎、PH(H ₂ O) 5.2、調査時の湿めり半乾、境界平坦明瞭、本層はAs・Me-a層、M・Km-5a層の混合層
第2層	15～45	腐植に頗る富む黒色(10YR ₄)のSiL、発達弱度の細粒状構造で中、小孔隙は中程度、ち密度12で疎、PH(H ₂ O) 6.1内外、可塑性中で粘着性やゝ大、透水性不良でやゝ湿性を呈する、境界平坦やゝ明瞭、本層以下は沖積土壌
第3層	45～70	腐植を含む黄褐(2.5Y ₄)のSL、発達弱度の粒状構造を呈し中、小孔隙に富む、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.3内外、透水性不良でやゝ湿性を呈する。境界平坦やゝ明瞭、本層以下70～90cmは腐植を欠く灰(5Y ₄)のS(触感)単粒状構造を呈する、90cm以下は腐植に富む黒色(10YR ₄)のC(触感)、ち密度はいずれも20内外で中、透水性不良のためいずれもやゝ湿性を呈する。90cm以下には鉄銹斑を含む。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~15	5.8	38.4	27.7	26.4	7.5	SL	6.28	0.55	11.4	10.8
2	15~45	11.2	12.9	25.0	47.7	14.4	SiL	10.96	0.47	23.3	18.8
3	45~70	9.1	35.1	33.4	27.9	3.6	SL	1.60	0.13	12.3	2.8

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
	H ₂ O	K cℓ			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.2	4.7	1.0	25.6	15.8	0.4	1.4	6.2	1.685	4.1
2	6.1	4.8	0.5	46.8	17.2	0.4	0.3	3.7	2.678	0.2
3	6.3	5.2	0.3	9.4	2.8	0.3	0.1	3.0	1.366	2.71

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似の統としては藻琴統があるが、両統とも同様に各河川流域の低位段丘に分布しているが、本統の方が幾分高い段丘に分布し、かつ、心土層の腐植含量が頗る多く、黒ぼく的事から区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B 地形 チブサ藻琴川、シンブイ藻琴川、丸万川等の河川流域(河沿い)に発達した、標高 40~80m、傾斜 3~5° 内外の河岸段丘。

C 気候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、また、春先季節風が強い。年平均気温 5.9℃、年平均降水量 850mm 内外。

D 植生及び利用状況

略平坦な段丘が僅かに利用されているに過ぎず、耕地には、ハッカ、てん菜、馬鈴薯、麦類、飼料作物等が栽培され、自然林はアカダモ、ヤマハンノキ、ナラ等である。

E 農業上の留意事項

高い台地からの滲透水によつて地下水位は高く湿性を呈するので排水施設が望まれる。

F 分布 北海道網走郡東藻琴村のチブサ藻琴川、シンブイ藻琴川、丸万川等の流域

調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 44 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 区 名	簡 略 分 級 式
チブサ藻琴川-チブサ藻琴川	llwfnae

② 土壤区別説明

チブサ藻琴川—チブサ藻琴川

示性分級式(畑)

土	鰯表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
産土	耘土土	土地	然	層分換	" "	効	害理	冠す	斜	為
力土	ののの	風	水水潤肥定	塩の石苦加	磷	害質的	害のの	然	の	水風
可の	層	粘土	乾	基	灰土里	酸	の障	危危	傾方	蝕蝕
能	の難	土着硬	沃	状豊含	" "	" "	有害	險險	傾方	蝕蝕
性厚	含	性性	性性	力力	態量	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
等深	量易	性性	性性	度度	否	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級さ	量易	性性	性性	度度	否	素度	無性	度度	斜向斜	度性性
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e	
	2 1 (2) 2 2 2 2 3 2 1 3 1 2 1 1 1 1 2 1 1 -- 2 2 1									
簡略分級式	w f n a e									

A 土壤区の特徴

本土壤区はチブサ藻琴川統に属する。本区は各河川沿の低位段丘地を取りまとめたものであり、表層部はA s。Me—a層、M。Kn—5 aの薄層を被覆するが、下層は屈斜路軽石流を母材とした沖積土層である。土層は膨軟で、また高台地からの浸透水によつて地下水位はやゝ高く、湿性を帯びている。従つて腐植の集積も多く40～60cmまでも腐植に富み、特に心土層が著しい。従つて表土の厚さは30cm以上で厚く、有効土層も1m以上で深い。保肥力は大きい。これは腐植によるものであり、固定力は作土は中で、心土は大、土層の塩基状態は中庸である。有効態磷酸含量は中庸で置換性塩基は苦土が少なく他の養分は多い。河川流域にあるため増冠水の危険性が多少あり侵蝕のおそれもある。

B 植生及び利用状況

略平坦な段丘が僅かに利用されているに過ぎず、耕地にはハツカ、てん菜、馬鈴薯、麦類、飼料作物等が栽培され、自然林はアカダモ、ヤマハン、ナラ等である。

C 地力保全上の問題点

浸透水により湿性を帯びるから、湿性対策が必要であり、土層は膨軟、軽膨で傾斜地では水によつても流亡し易いから被覆作物の栽培も必要である。かなり深くまで腐植に富んでいるが、心土層は磷酸吸収力が極めて強いから深耕に当つては磷肥増施が望まれる。尙苦土入肥料も必要である。

D 分布 北海道網走郡東藻琴村のチブサ藻琴川、シンブイ藻琴川、丸万川等の流域

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

藻 琴 川 統

(1)土壌統の概説

A土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm内外、腐植含量は10%内外、土性は概ねCL~SLである。色は10YR~7.5YR、彩度は1~2、明度は2~3である。ち密度は1.2~1.8で疎、湿めり半乾、PH (H₂O) 5.6内外、下層への境界は波状明瞭である。本層直下には2cm内外の厚さに、明褐灰(7.5YR_{7/2})のSL層(触感)が存在し、この層までAs・Me-a層である。更に5cm内外の厚さに灰褐色(7.5YR_{5/2})の腐植に富むCL層の沖積層が、続いて5cm内外の厚さに、にぶい黄褐(10YR_{7/3})のM・Km-5a層の浮石粗砂層が存在する。ち密度は1.3~1.8で疎、湿めりは半乾であり、一般にはこれら層を含めて作土層となつているところが多い。

第2層は厚さ25cm内外、腐植含量は5%内外、土性は概ねCLであるが、ところによつては砂層となり、あるいは砂層と互層を成している。概ね単一構造を呈し、孔隙は極めて少なくち密度は1.5内外で疎である。透水性は甚不良で、湿性を呈している。PH (H₂O) 6.3内外、本層直下は、灰褐(10YR_{4/2})を呈してS、CL及びヨシ等からなる低位泥炭と互層を成しており、透水性は甚だ不良で、湿性の程度が著しい。

第1層	0~15cm	腐植に富む灰褐(7.5YR _{7/2})のCL、ち密度1.2で疎、PH (H ₂ O)、5.6内外、調査時の湿めり半乾、境界波状明瞭、本層直下15~17は腐植を欠く 灰褐(7.5YR _{7/2})のSL(触感)で本層までAs・Me-a層 17~22cmは腐植に富む灰褐(7.5YR _{4/2})のCL(触感)単一構造を呈し、ち密度は1.3で疎、可塑性は中、透水性は不良である、本層は沖積層 22~27cmは腐植を欠く、にぶい黄褐(10YR _{7/3})のS、単粒構造を呈し、ち密度は1.8で疎
第2層	27~52	腐植に富む含む灰褐(10YR _{5/2})のCL、単一構造を呈し、孔隙は極めて少ない。ち密度1.5で疎、可塑性中、透水性は甚だ不良で湿性を呈している。PH (H ₂ O) 6.3内外、本層直下は灰褐(10YR _{4/2})を呈して、土性はS、CL及びヨシ等からなる低位泥炭の互層になつており、透水性は甚だ不良で湿性の程度が著しい。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土					
1	0~15	5.1	31.4	25.9	26.9	15.8	CL	6.65	0.52	12.8	11.4
2	27~52	5.0	7.9	34.7	36.9	20.5	CL	3.77	0.23	16.4	6.5

代表的断面の分析成績

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 ^{me} /100g	置換性塩基 ^{me} /100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.6	4.8	0.3	21.3	11.4	0.6	1.2	54	1.097	4.5
2	6.3	5.0	0.1	19.7	12.3	1.3	0.1	62	6.93	0.7

A-2 他の土壌統との関係

本統と類似の統としてはチブサ藻琴川統があり、両統とも各河川流域の低位段丘に分布するとは云え、本統の方はより低地に分布し、心土層の腐植含量が少ないことで区別される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積/水積

B、地形 藻琴川流域の標高20~80m、傾斜3°内外の低位段丘、

C、気候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、また、春先季節風が強い年平均気温5.9℃、年平均降水量850mm内外。

D、植生及び利用状況

僅かに耕地化され、雑穀類、飼料作物、牧草等が栽培され未耕地にはヤチダモ、ヤマハンアカダモ、クルミ等が疎生している。

E、農業上の留意事項

最下段丘にあるため、高台地からの滲透水にあるいは河川の水位の影響により、湿生を呈するので、これに対する対策が望まれる。

F、分布 北海道網走郡東藻琴村の藻琴川本流域

調査及び、記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
藻琴川 - 藻琴川	llwlltfnae

② 土壌区別説明

藻 琴 川 一 藻 琴 川

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	表表表	透保湿	保固土	置 有微酸	有物	増地	自傾人 侵耐耐
生土	土土耘 土土地	然 層	分換	効 害理	冠す	斜	水風
産土	土土の	の風	の 性 態量	の石苦加磷	物的	水べり	然 為 水風
力の	ののの	乾の水水潤肥肥定塩	の 性 態量	の 灰土里酸要	害 質障	ののの	の 蝕
能厚	の 粘土	基	豊含	の 害	害 危危	傾傾	蝕蝕
性	含難 土着硬乾	沃 状	量	無性	險險	方	蝕蝕
特 深	性性さ 性性度	力力態	否	性	度度	斜向斜	度性性
級さ	量易 湿 度				性	斜	触
t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	2 1 1	3 3 2-3	2 2 1	1 3 1 2 1 2 1 1	2 1 1 - -	2 2 1	
簡略分級式		w t f n a e					

A 土壌区の特徴

本土壌区は藻琴川統に属する。本区は本村の中央部を流れる藻琴川流域の最下段の低位段丘をとりまとめたものである。表層部は概ね、A s・Me-a層、及び、M・Km-5 aの薄層を被覆し、これが作土層となつているが、作土層の薄いところでは直下にM・Km-5 aの薄層が残存している。低位段丘にあるため、高台地からの滲透水により、湿性を呈しており、このため腐植を集積して、所によつては50cm以下にヨシ等から成る低位泥炭を挟在している。表土の厚さは概ね20cm内外で中庸であるが、有効土層は1m以上で深い。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は良好である。有効態磷酸含量は中庸、置換性塩基では苦土が比較的少ないが他の養分は多い低位段丘にあるため増冠水の危険性が多少あり、侵蝕のおそれもある。

B、植生及び利用状況

僅かに耕地化され、雑穀類、飼料作物、牧草等が栽培され、未耕地にはヤチダモ、アカダモ、クミ等が疎生している。

C、地力保全上の問題点

河川流域の低位段丘で高台地からの滲透水により、湿性の程度が甚しいので排水対策が必要である。養肥分では苦土が比較的少なく、又、有効態磷酸も心土は特に少ないので、有機物並びにこれら資材を投入しながら除々に深耕することが望まれる。

D、分布 北海道網走郡東藻琴村の藻琴川本流域

記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

西 倉 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22~28cm、腐植含量は16~24%内外、土性はSL~CLである。色は2.5Y~1.0YR、彩度1、明度3である。ち密度1.5~1.8で疎、湿めり半乾、PH (H₂O) 5.0~5.7内外。下層への境界平坦明瞭。本層はAs. Me-a層で高台地からの崩壊土を一部混入する。

本層直下には2cm内外の厚さに黒(2.5Y2/1)の腐植土、更に2cm内外の厚さに腐植を欠く灰色(2.5Y8/3)のSL(触感)が存在する。ち密度は1.5~2.1で疎~中。湿めり半乾~やや湿。

第2層は厚さ7cm内外の厚さに腐植を欠く灰色(2.5Y8/2)のSである。単粒状構造を呈し、孔隙に富む、ち密度は1.7~1.8で疎、湿めりやや湿。PH (H₂O) 5.1本層はM. Km-5a層、下層への境界平坦明瞭。

第3層は厚さ26cm内外、ヨシを主材とする低位泥炭でLiCを混入。色は2.5Y、彩度1、明度2である。分解程度は良好。湿めりは湿、PH (H₂O) 5.2。下層への境界は平坦やや明瞭。

第4層は厚さ10cm内外、ヨシを主材とする低位泥炭とLiCの混合層。色は2.5Y、彩度1明度4である。分解程度は良好。湿めり湿、PH (H₂O) 5.3内外。下層への境界は波状漸変。

第5層は厚さ25cm内外、ヨシを主材とする低位泥炭とLとの混合層。色は2.5Y、彩度1明度3内外である。分解程度はやや良好、湿めり湿。PH (H₂O) 5.2内外。ち密度はいずれも7~10程度で疎で、ところによつては甚だ湿性を呈して50cm内外より潜水状態を呈している。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 網走郡東藻琴村西倉、試坑NO、LP

第1層	0~28cm	腐植に頗る富む黒色(2.5Y3/1)のCL、ち密度1.5~1.8で疎 PH (H ₂ O) 5.0、調査時の湿めり半乾、境界平坦明瞭、本層は As. Me-a層に一部崩壊土混入 本層直下28~30cmは黒(2.5Y2/1)の腐植土、続いて30 ~32cmは腐植を欠く灰色(2.5Y8/3)のSL(触感)、ち密度 1.5~2.1で疎~中、湿めり半乾~やや湿。
第2層	32~39	腐植を欠く灰色(2.5Y8/2)のS、単粒構造で、ち密度1.7~1.8で疎、 PH (H ₂ O) 5.1内外、調査時の湿めりやや湿、境界平坦明瞭、本 層はM. Km-5a層

第3層	39~65	ヨシを主材とする低位泥炭で、LiCを混入、色は黒(2.5Y2/1)分解度良好、PH(H ₂ O) 5.2、調査時の湿めり湿、境界平坦やゝ明瞭。
第4層	65~75	ヨシを主材とする低位泥炭とLiCの混合層、色は灰色(2.5Y4/1)分解度良好、PH(H ₂ O) 5.3内外、調査時の湿めり湿、境界波状漸変。
第5層	75~100+	ヨシを主材とする低位泥炭とLとの混合層、色は黒色(2.5Y3/1~2.5Y2/1)分解度やゝ良、PH(H ₂ O) 5.2内外、調査時の湿めり湿~潤。 泥炭混合層は、ち密度はいずれも7~10内外で、頗る疎、ところによつては甚だ湿性を呈して50cm内外より湛水しているところもあり。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~28	9.9	18.7	26.9	32.2	22.2	CL	9.60	0.79	12.2	16.5
2	32~39	0.6	92.1	2.9	3.7	1.3	S	0.68	0.04	17.0	1.2
3	39~65	9.8	8.2	19.4	32.4	40.0	≒LiC	16.61	1.31	12.7	28.6
4	65~75	6.4	3.5	19.9	38.9	37.7	≒LiC	8.57	0.50	17.2	14.7
5	75~100+	10.2	0.8	15.8	40.8	42.6	≒LiC	9.21	0.76	12.1	15.8

層位	PH		置換酸 度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H ₂ O	Kcl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.0	4.5	1.4	28.8	13.6	0.4	0.3	47	948	12.0
2	5.6	4.6	1.0	3.1	1.0	0.1	0	32	89	4.6
3	5.2	4.6	2.5	48.6	12.5	0.4	0.2	26	1700	0.4
4	5.3	4.4	2.1	25.6	10.6	1.1	0.5	41	391	0.8
5	5.2	4.3	2.5	48.6	18.3	0.7	0.5	38	765	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては東藻琴統及び藻琴川統があるが、本統は下層に泥炭層が存在することで区別される。

A-3 母材 非固結火成岩／ヨシ

A-4 推積様式 風積／集積（低位泥炭）

B、地 形 平坦な河川流域の低湿地並びに山際の湿地

C、気 候

オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に経過することもあり、また春先の乾燥期に季節風が強い。年平均気温 5.9 °C、年平均降水量 850 mm 内外。

D、植生及び利用状況

半ば耕地化され、ハツカ、麦類、てん菜、馬鈴薯、飼料作物、牧草等が栽培されている。未耕地にはヨシ、ヤチハン、ヤチダモ等が生育している。

E、農業上の留意事項 過湿状を呈するから、第1に排水が望まれる。

F、分 布 北海道網走郡東藻琴村西倉
調査及び記載責任者 高橋 市十郎 (北海道立中央農業試験場)
年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土 壌 統 の 細 分

① 土 壌 区 一 覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
西 倉 - 西 倉	ll wll f n a

② 土壤区別説明

西 倉 西 倉

示性分級式（畑）

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	透	保	固	置	有	微	酸	有	物
産	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理	冠	す
力	土	の	土	風	の	性	態	量	物	的	水	り
可	の	の	の	乾	水	潤	肥	定	塩	の	害	の
能	の	粘	土	沃	状	豊	含	要	害	的	危	の
性	厚	含	難	着	乾	沃	状	豊	含	要	害	的
等	深	性	性	性	度	力	態	量	素	度	無	性
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	性	性	斜	斜
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
Ⅲ					2	1	(2)	Ⅲ	2	2	2	2
					2	2	3	Ⅲ	1	3	2	1
					1	1	2		1	1	Ⅲ	2
					1	1	Ⅲ	2	1		1	—
					—	—		1	1	1	1	1
簡略分級式 Ⅲ w f n a												

A、土壤区の特徴

本土壤区は西倉統に属する。本区は藻琴川本流域の低湿地並びに、段丘あるいは台地の山際に位置する湿地帯に分布する。表層はA s. Me-a層、M. Km-5 a層の薄層を被覆しているが30 cm内外よりヨシを主材とする低位泥炭の出現するものである。表土は25 cm内外とやや厚く、有効土層も1 m以上で深い。ただ低地にあるため、あるいは山際に位置するために滲透水により甚だしく湿性を呈し、泥炭の集積したものである。

保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は不良である。有効態磷養含量は中で、置換性塩基では苦土が少ないが、他の養分は比較的多い。

B、植生及び利用状況

半ば耕地化され、ハツカ、麦類、てん菜、馬鈴薯、飼料作物、牧草等が栽培されている。未耕地にはヨシ、ヤチハン、ヤチダモ等が生育する。

C、地力保全上の問題点

本土壤区は地形的には河川流域の低湿地、並びに山際の湿地にあり、過湿状を呈している。したがって、明暗渠による排水対策が先ず第1で、その後徐々に深耕してゆくことが大切である。深耕に際しては、燐酸、苦土、加里、の増肥並びに酸度も強いから炭カルの投入も必要である。

D、分布 北海道網走郡東藻琴村西倉

記載責任者 高橋市十郎 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

3 保全対策地区及び説明

(1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

畑

保全対策地区	該当土壌区	面積 (ha)	主なる特徴	重要な保全対策
東洋保全対策地区	東洋一東洋山園一山園	1.304	風水蝕をうける 心土層磷酸固定力大 軽鬆土である 塩基がやゝ少ない 気候冷涼である	風水蝕の防止 心土肥倍耕 有機物の施用・深耕の併用 施肥合理化 適作物の選定
末広保全対策地区	末広一末広	500	心土層磷酸固定力大 軽鬆土である 塩基含量がやゝ少ない	心土肥培耕 有機物の施用・深耕の併用 施肥合理化
旭台保全対策地区	旭台一旭台千草一千草明生一明生	1.419	風水蝕をうける 軽鬆土である 表土が浅い 塩基含量がやゝ少ない	風水蝕の防止 有機物の施用・深耕の併用 深耕 施肥合理化
広栄保全対策地区	広栄一広栄	216	一部湿性 心土層磷酸固定力大 有効態磷酸、苦土含量やゝ少ない	排水 心土肥培耕 施肥合理化
東藻琴保全対策地区	東藻琴一東藻琴	809	一部排水不良 下層堅密層 苦土含量やゝ少ない	排水 心土耕・心土破碎 有機物の併用 施用の合理化

保全対策地区	該当土壌区	面積 (ha)	主なる特徴	重要な保全対策
藻琴川保全対策地区	チブサ ₁ 藻琴川 チブサ藻琴川 藻琴川-藻琴川	45	排水不良 表土や ₁ 浅い 苦土含量少ない	排水 深耕 施肥合理化
西倉保全対策地区	西倉-西倉	136	排水不良 苦土、加里含量少ない 酸性が強い	排水 施肥合理化 酸性改良

(2) 保全対策区別説明

畑

< 東洋保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡東藻琴村	1304	東洋-東洋、山園-山園

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

①特徴と問題点

本対策地区は概ね藻琴山麓に位置し、標高100～380m、傾斜2～8度の波状性丘陵～波状性台地からなっている。土壌は軽、膨軟な火山灰累積層からなり、基盤は屈斜路浮石流層であるが、その層層は表層からAs・Me-a、M・Km-5a、不明火山灰、M-f、洪積世火山灰の順に推積している。この火山灰は、透水性良好で乾燥するため、春先から初夏にかけての乾燥期に襲来する季節風によつて表土が飛散し、播種期、発芽期に著しい被害をしばしばこうむる。緩傾斜～傾斜地に於ては、融雪時、並びに降雨時には水蝕が発生する。表土耐風水蝕性の弱い土壌でその厚さは概ね15～23cm内外で中庸であるが、心土層に分布するM・Km-5a層は一般に腐植を含まない未風化の浮石粗砂層で、普通耕深の場合は作土直下に残存し、作物の通根性を阻害している。一方M・Km-5aの薄いところでは、作土層直下は不明火山灰層で、これは磷酸固定力が極めて強いから磷酸資質材を導入して心土肥培耕を行なうことが望まれる。また、標高の高い山麓地帯では冷涼で農期間が短かいから、豆類は除くなど適作物の選択も必要である。磷酸吸収力は作土は小さいが、下層土が強く、有効態磷酸含量は全層的に少なく、置換性塩基では苦土含量が少ない。

②営農の方向、その他

標高の高い地帯では以前は一般に穀菽経営が行なわれていた様であるが、近年はパイロット事業その他、家畜を導入して草地にとつて替わられつつある。しかし、幾分標高が下ると、ハツカその他の穀菽主体の経営が行なわれている。今後は家畜導入の方向をよりいっそう促進して、混同経営ひいては酪農経営の方向に進むべきと思われ、その際は機械化を進め、堆厩肥を畑地に還元しながら除々に深耕し地力を高めることが必要で、深耕に当つては、磷肥、含苦土肥は充分増施されなければならない。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、形式、数量等	備考	
1. 風水蝕防止	1.304ha	耕地防風林の完備、等高線栽培、緑作帯の設置	指導の徹底		
2. 心土肥培耕		牧草の導入			
3. 有機物の施用		磷酸資質材を導入して			磷酸資質材
4. 施肥合理化		心土肥培耕			心土肥培耕機械の導入
5. 適作物の選定		堆厩肥、緑肥、磷肥を増施しながら徐々に深耕			酪農あるいは混同経営の推進、緑肥作物の導入
		磷肥、苦土肥の増施			
		耐冷性の弱い作物の栽培は避ける			

< 末 広 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡東藻琴村	500	末広ー末広、

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は標高約80～100m、概ね平坦な河岸段丘をとりまとめたもので、本村内の略中央部ないしは北西部に分散分布する。表土層はAs・Me-a、M-f層等の腐植含量の多い火山灰より構成されており、その厚さも30cm内外と深い。このように、地形的にも地理的にも本村内に於ては最も条件の良い地帯であるが、他の火山灰地区と同様に表層土は膨軟、輕鬆な土壌であり、春先、乾燥期には風蝕のおそれなしとは云い難く、また高台地からの滲透水も心配はいらぬとは云い切れない。磷酸吸収力は作土は中庸であるが、心土層以下、特に心土層は強く、全層的に有効態磷酸含量は少ない。したがって作土層を深くするには磷酸資質材を導入して心土肥培耕を行うことが望まれる。置換性塩基では苦土含量が少ない。

② 営農の方向、その他

ハツカ、てん菜、馬鈴薯、豆類等を主体とした穀菽経営が行なわれている。土地条件も比較的良好なので、本村内に於ては栽培作物の種類も最もバライテイに富み得ると思われるが、地帯的に数年に一度は冷涼な気候になつていような現状では経営経済は必ずしも安定とは云い難い。人手不足とは云い機械化の促進により耕地面積を更に拡大して、緑肥作物を取り入れ、土壌へ還元しかつ深耕して地力の増進をはかること等が尚いつそう必要と思われる。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
1.心土肥培耕 2.有機物施用 3.施肥合理化	500ha	下層のM-fの腐植層まで、 堆厩肥、緑肥の施用を推進しながら除々に深耕 磷肥、苦土肥の施用 深耕の場合は増施	磷酸質資材、機械の導入 機械化の場合は緑肥作物の導入 熔成磷肥	

< 旭台保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考(該当土壌区)
網走郡東藻琴村	1.409	旭台-旭台 千草-千草 明生-明生

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

主として標高約60～120m、傾斜2～5度内外の波状性丘陵地ないしは波状性高台地に分布する。土壌は表層は概ねAs・Me-a、M・Km-5a層で、その厚さは略20cm内外である。基盤は概ね屈余路浮石流堆積物で、表層土と基盤との中間にはM-f、不明火山、等が混合して堆積しており、その層序はかなり乱れている。いずれにしても土壌は膨軟、軽鬆な火山灰で、本対策区は特にバフバフした性状を有しており、春先、乾燥期には風蝕の被害が著しい。緩傾斜～傾斜地に於ては融雪期及び降雨時には水蝕も発生する。表土は風水蝕により薄くなり、腐植含量も比較的少ない。心土は磷酸固定力がかなり強く、有効態磷酸含量も少ない。置換性塩基では苦土含量が少ない。

② 営農の方向、その他

てん菜、馬鈴薯、ハツカ、豆類、麦類等を主体とした穀菽経営が一般に行なわれている。さて土壌は風水蝕と有機物の補給不足により、地力が低下の方向にあり、微量要素の欠乏も問題となりうるものと思われる。今後機械化の進行に伴なつて有機物の施用は年々に減少するように考えられるが、有機物の施用は本土壌の地力増強上不可欠の対策であるから、家畜を導入した混同経営に進むか、機械化で穀菽経営を行なう場合は緑肥作物の組み入れ等、特に考慮すべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び、機械器具の種類、型式、数量等	備考
1. 風水蝕防止	1419ha	耕地防風林の完備、緑作帯の設置、牧草、被覆作物の導入	指導の徹底	
2. 有機物施用 深耕の併用		堆厩肥、緑肥の施用	混同経営の推進 緑肥作物の作付	
3. 深耕		有機物を施用しながら漸次深耕	トラクターの導入 緑肥作物の作付	
4. 施肥合理化		燐肥、苦土肥の施用 深耕に際しては増施	熔成燐肥	

< 広栄保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡東藻琴村	216	広栄一広栄

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

藻琴山麓から少し下つた山間の小河川流域の緩傾斜地ないしはだるみに分布し、表層はA s. Me-a、M・Km-5 a、の混合層からなることは、他と略同様であるが、その下部にあるM-f層への腐植の集積量が多く、腐植層がかなり厚くなっている。これは山間の凹地で、高台地からの滲透水等によりやゝ湿性を帯びているためである。しかし表土層が厚い割には基盤の浮石礫層の出現の割合浅い(80cm内外)のも特徴である。乾燥期には風水蝕がやゝ問題となるが、融雪時並びに降雨時には一時的に過湿状になりうるので排水対策が必要である。心土は燐酸固定力が強く、有効態燐酸が少ない。置換性塩基では苦土が比較的少ない。しかし、作土層の塩基状態、養分状態はほぼ良好である。

② 営農の方向、その他

てん菜、馬鈴薯、ハッカ、麦類等、穀菽主体の経営であるが、地理的、気象的条件からみて、有畜化を推進して、混同経営あるいは酪農経営の方向に進むべきかと思われる。

(3) 地力保全対策

④ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量、	備考
1. 一部排水	216ha	暗渠排水 山際は補水渠	工事費の助成	
2. 心土肥培耕		M-f層まで深耕	燐酸質資材、機械の導入	
3. 施肥合理化		燐肥、苦土肥の施用 深耕に際しては増施	熔成燐肥	

< 東藻琴保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土区)
網走郡東藻琴村	809	東藻琴-東藻琴(この中は水田138haが含まれる)

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

標高約40～60m内外の略平坦で一部緩傾斜を有する沖積地で、市街地周辺に分布する。表土層は軽鬆なAs・Me-a及びM・Km-5a等の火山灰によりなり、下層の基盤は概ね屈斜路浮石流で、これが水により二次的に堆積したものであり、表層も部分的にはかなり堅密に堆積しているが、50cm内外以下より極め堅密である。したがって耕耘にはかなりの労力を要する。表層は透水性も比較的良好で乾いているが、下層は細粒な土性の土壌が極めて堅密に堆積しているため、透水性が悪く35cm内外以下より鉄錆斑の二次生成物を含み、部分的にはグライ状を呈しており、一時的に過湿になるおそれが多く増冠水の危険も多少ある。表層土は、風水蝕により19cm内外とやゝ薄く、有効土層は下層が堅密な盤層のため50～100cmである。保肥力は中庸である。有効態燐酸含量は多く、置換性塩基は苦土が少ない以外は他の養分は多い。

② 営農の方向、その他

殆んど耕地化され、畑地はハツカ、豆類、てん菜、馬鈴薯類を主とした穀菽農業並びにこれに乳牛が加わつた混同経営が営まれており、一部には水田もつくられている。本対策地区の土壌は下層土が極めて堅密に堆積して、排水不良で湿性を呈するため、過湿に対する対策としては、明暗渠を施工し、その後堅密を土層に対しては、心土破碎あるいは深耕を行なつてこれを改良する必要がある。深耕に際して、有畜農業を推進する場合には堆厩肥を施用しながら、穀菽経営で機械化を、推進する場合は緑肥作物等を輪作の中にとり入れて、これを鋤き込む等しながら、除々に深耕、土層の膨軟化をはかる等、地力の増進に努めなければならない。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対象資材及び機械器具の種類、型式、数量、	備考
1. 排水 2. 心土耕、心土破碎 有機物の併用 3. 施肥合理化	809ha	暗渠排水 堅密層が浅く出るところはパンプレーカーにより心土破碎 並びに堆肥を入れながら除々に深耕 深耕の場合は磷肥、苦土肥の増施	工事費の助成 パンプレーカー 熔成磷肥	

< 藻琴川保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡東藻琴村	45	チブサ藻琴川ーチブサ藻琴川 藻琴川ー藻琴川

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

藻琴川本流、チブサ藻琴川、シンブイ藻琴川、丸万川等、各河川流域に発達した河岸の低位段丘、あるいは低平地に細長く分布する。したがって高所からの滲透水並びに河川の水位の影響を受けて湿性を呈している。表土層は軽鬆なAs・Me-a及びM・Km-5aを被覆し、下層土は屈斜路浮石流を母材として、黒ぼく的に腐植を集積しているところと、一部ヨシ低位泥炭の集積層を挟在するところがある。保肥力、固定力とも黒ぼく的に腐植の集積しているところが大きく、土層の塩基状態は概ね中〜良好である。いずれも有効態磷酸含量は中庸で、置換性塩基は苦土が少ない以外は他の養分は比較的多い。低地にあるため増冠水並びに侵蝕のおそれが多少ある。

② 営農の方向、その他

僅かに耕地化され、穀菽経営並びにこれに一部乳牛を導入した混同経営が営なまれている。土壌的には排水を施し、傾斜のあるところでは被覆作物を栽培したり、一部表土の薄いところでは深耕養分では磷肥並びに苦土肥の増施が必要である。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量、	備考
1. 排水 2. 深耕 3. 施肥合理化	45ha	暗渠排水 有機物を入れながら徐々に深耕 苦土肥、燐肥の増施 特に深耕に際して	工事費の助成 熔成燐肥	

<西倉保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
網走郡東藻琴村	136	西倉一西倉

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

主として藻琴川流域の低湿地並びに山際の湿地帯に分散分布する。表層は概ねAs・Me-a、M・Km-5aの薄層を被覆しているが、30cm内外よりヨシを主材とする低位泥炭の出現するものである。表土は25cm内外とやや厚く、有効土層も1m以上で深い。ただ山際あるいは極く低地に分布するため高所からの滲透水あるいは河川水位の影響をうけて、著しく湿性を呈して、泥炭の集積したものである。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態は不良である。有効態燐酸含量は中で置換性塩基では苦土が少ないが、他の養肥分は比較的多い。

② 経営の方向、その他

半ば耕地化され、主に穀菽経営が行なわれている。過湿地状態を呈しているため、先ず第1に排水対策が必要である。

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量、	備考
1. 排水 2. 施肥合理化 3. 酸性改良	136ha	暗渠排水、切断排水 燐酸、苦土の施用 合わせて有機物を導入しながら徐々に深耕 炭カルの施用	工事費の助成 熔成燐肥 炭カル	

土壤分析成績 (畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性											
					礫 (風 乾 物 中) %	風乾細 土中		細土無機物中					土 性	現地における理 学性100cc容中		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
東 洋 保 全 對 策 地 区	東 洋 東 洋	6 代表	1	0~18	—	3.6	8.7	34.8	29.6	64.4	29.7	5.9	L	—	—	—
			2	18~28	—	1.4	2.2	90.8	4.4	95.2	2.9	1.9	S	—	—	—
			3	28~44	—	11.6	8.9	38.4	22.6	61.0	32.8	6.2	L	—	—	—
			4	44~54	—	13.0	7.8	32.6	18.9	51.5	38.3	10.2	L	—	—	—
			5	54~72	—	8.5	4.2	53.9	16.9	70.8	22.3	6.9	SL	—	—	—
			6	72~82	—	11.1	6.4	38.2	18.7	56.9	36.4	6.7	L	—	—	—
			7	82~97	—	9.6	1.6	22.9	32.1	55.0	33.4	11.6	L	—	—	—
			8	97~112	—	6.3	0.9	58.3	23.2	81.5	12.8	5.7	SL	—	—	—
			9	112~	—	9.5	0.8	21.7	13.6	35.3	38.5	26.2	LiC	—	—	—
			10	~	—	5.7	0.3	10.5	34.0	44.5	37.8	17.7	SL	—	—	—
山 園 山 園	7B 代表	1	0~18	—	4.3	7.3	48.4	27.9	76.3	19.4	4.3	SL	—	—	—	
		2	18~32	—	9.1	7.7	33.0	26.4	59.4	33.2	7.4	L	—	—	—	
		3	32~70+	5	5.1	1.2	71.1	23.9	95.0	4.6	0.4	S	—	—	—	
末 大 保 全 對 策 地 区	末 広 末 広	13 代表	1	0~18	—	5.3	7.0	39.9	25.4	65.3	27.2	7.5	SL	95.9	32.6	25.1
			2	20~40	—	8.7	7.2	40.4	20.6	61.0	29.3	9.7	L	104.5	29.9	38.0
			3	40~65	—	6.7	2.8	40.9	28.2	69.1	22.6	8.3	SL	114.0	32.4	35.3
			4	75~87	—	7.8	3.8	27.9	27.1	55.0	35.1	9.9	L	118.1	31.1	44.0
			5	87~107	—	11.0	1.8	8.7	20.7	29.4	48.2	22.4	SL	122.9	27.3	49.7
			6	107~137+	—	10.0	0.9	8.7	18.5	27.2	43.1	29.7	LiC	145.2	35.3	48.9
	13B	1	0~18	—	4.8	7.4	41.7	26.3	68.0	23.1	8.9	SL	—	—	—	
		2	18~35	—	8.2	8.3	33.7	36.9	70.6	22.8	6.6	SL	—	—	—	
		3	35~53+	—	7.6	4.2	34.7	26.9	61.6	33.4	5.0	L	—	—	—	
		79	1	0~20	—	4.4	5.7	44.8	28.5	73.3	21.5	5.2	SL	—	—	—
旭 台 旭 台	10B 代表	1	0~20	—	7.2	6.4	52.3	15.2	67.5	25.8	6.7	SL	—	—	—	
		2	20~30+	—	9.2	3.5	43.2	19.4	62.6	28.9	8.5	L	—	—	—	
		9	1	0~17	—	4.7	6.1	39.4	29.0	68.4	25.0	6.6	SL	—	—	—
千 草 千 草	9 代表	2	25~45	—	8.6	1.2	22.0	17.3	39.3	40.7	20.0	CL	—	—	—	
		3	45~65	—	10.5	2.3	22.7	28.2	50.9	34.9	14.2	L	—	—	—	
		4	65~95	—	9.6	0.9	20.7	19.1	39.8	37.5	22.7	CL	—	—	—	

		化 学 性												
空 气 容 积 cc	孔 隙 率 %	PH		置 换 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 换 容 量 me /100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	燐 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
		H ₂ O	Kc/l		T-C (乾土) %	T-N (乾土) %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
—	—	5.8	4.8	0.8	5.25	0.47	11.2	17.6	297.8	7.5	11.8	60	1.010	2.2
—	—	6.4	4.9	0.3	1.32	0.10	13.2	4.3	43.2	4.4	1.4	35	552	1.3
—	—	6.0	4.8	0.8	5.87	0.43	13.7	22.0	157.9	5.4	4.7	25	2.545	1.4
—	—	6.1	4.9	0.4	5.22	0.47	11.1	21.4	111.6	5.4	15.1	19	2.615	1.1
—	—	6.1	5.4	0.3	2.68	0.19	14.1	12.2	38.4	5.4	17.0	11	2.109	0.7
—	—	6.1	5.3	0.3	4.21	0.28	15.0	19.2	84.7	2.8	25.0	16	2.464	0.6
—	—	6.2	5.8	0.3	1.05	0.08	13.1	11.8	53.8	2.8	49.0	16	2.051	0.6
—	—	6.3	5.6	0	0.53	0.06	8.8	10.9	77.1	5.4	82.8	26	1.588	0.6
—	—	6.2	5.1	0.3	0.50	0.05	10.0	20.4	287.7	11.1	41.4	50	1.225	0.8
—	—	6.3	4.8	0.3	0.18	0.02	9.0	17.7	333.7	29.4	31.6	85	765	0.9
—	—	5.3	4.7	0.8	4.45	0.35	12.7	17.2	292.7	7.5	38.6	60	947	3.3
—	—	5.7	4.9	0.4	4.95	0.38	13.0	17.7	204.1	2.8	17.0	41	2.109	0
—	—	6.0	5.4	0.1	0.75	0.08	9.4	6.4	62.0	5.4	7.5	34	1.330	0.6
42.3	67.4	6.0	5.0	0.2	4.31	0.38	11.3	19.0	339.0	7.5	14.6	63	1.268	1.9
32.1	70.1	6.5	5.2	0.1	4.57	0.37	12.4	21.9	339.0	16.5	61.2	55	2.025	0.6
32.3	67.6	6.9	5.6	0.1	1.71	0.14	12.2	9.5	73.2	5.4	96.6	27	1.577	0.7
24.9	68.9	7.0	5.4	0.1	2.41	0.02	11.0	16.1	169.4	11.1	184.2	37	1.685	0.5
23.0	72.7	6.5	5.2	0.1	1.20	0.10	12.0	20.0	250.5	22.4	123.4	37	1.788	0.5
15.8	64.7	6.5	4.9	0.2	0.56	0.04	14.0	20.9	308.2	44.6	33.9	53	1.190	1.4
—	—	5.9	5.1	0.4	4.54	0.41	11.1	20.2	385.3	18.3	48.0	68	982	9.3
—	—	6.1	5.1	0.3	5.24	0.51	10.3	23.1	369.9	29.4	48.5	57	1.759	1.1
—	—	6.3	5.3	0.2	2.65	0.22	12.0	14.0	130.9	5.4	32.0	34	1.845	0.6
—	—	6.9	5.8	0	3.46	0.32	10.8	24.7	531.6	22.4	48.5	77	1.235	1.8
—	—	6.3	5.6	0	1.81	0.15	12.1	10.7	104.0	8.3	64.1	35	1.675	0
—	—	6.3	5.3	0.3	0.73	0.04	18.3	20.7	277.3	48.0	163.0	48	1.127	0.1
—	—	5.9	5.0	0.5	3.99	0.35	11.4	18.4	277.3	7.5	20.0	54	1.627	1.5
—	—	6.2	5.3	0.4	2.26	0.18	12.6	13.6	100.1	5.4	26.8	26	2.002	0.7
—	—	5.7	5.1	0.3	3.69	0.29	12.7	17.1	369.8	7.5	45.2	77	1.105	6.7
—	—	5.3	4.1	0.3	0.79	0.06	13.2	21.3	266.9	29.4	7.1	46	1.247	0.6
—	—	6.4	5.6	0.1	1.48	0.14	10.6	13.8	97.6	11.1	25.0	25	1.716	0.2
—	—	6.3	5.1	0.3	0.58	0.07	18.3	16.8	153.9	7.5	129.5	33	1.365	0.7

土壤分析成績 (畑)

保全対策区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学												
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における理 100cc 容 中			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
旭台保全対策地区	明生	12	1	0~18	—	5.1	5.8	37.8	33.5	71.3	23.2	5.5	SL	109.9	29.5	34.7	
			2	18~43	—	11.7	3.0	6.5	26.3	32.8	45.1	22.1	SiCl	97.1	22.7	37.3	
			3	43~65	—	9.6	1.1	5.5	37.3	42.8	35.2	22.0	CL	106.8	26.6	36.5	
			4	70~95	—	9.1	—	3.4	30.3	33.7	50.5	15.8	SiCl	111.5	32.5	36.8	
	1	22	1	0~22	—	9.2	4.0	29.2	23.4	52.6	33.9	13.5	L	102.8	33.0	34.4	
			2	22~45	—	9.3	3.3	13.5	39.1	52.6	33.6	13.8	L	112.8	27.7	43.3	
3			45~75	—	7.4	0.9	22.0	16.6	38.6	41.7	19.7	CL	133.9	34.2	40.6		
生	20	1	0~15	—	4.8	6.4	34.4	24.6	59.0	32.2	8.8	L	—	—	—		
		2	15~35	—	8.5	3.0	38.3	26.1	64.4	28.2	7.4	L	—	—	—		
		3	35~65	—	2.8	0.7	59.7	25.2	84.9	12.1	3.0	SL	—	—	—		
広栄保全対策地区	13B	代表	1	0~15	—	4.8	8.5	49.8	24.1	73.9	19.5	6.6	SL	—	—	—	
			2	15~28+	—	11.7	16.2	29.6	32.7	62.3	28.3	9.4	L	—	—	—	
	13F		1	0~17	—	5.6	9.8	32.5	28.5	61.0	27.3	11.7	L	—	—	—	
			2	17~22	—	1.8	2.0	78.3	11.2	89.5	6.8	3.7	S	—	—	—	
			3	22~40	—	10.4	8.7	31.6	21.0	52.6	35.6	11.8	L	—	—	—	
			4	40~60+	—	7.6	3.8	52.5	22.7	75.2	21.6	3.2	SL	—	—	—	
東藻琴保全対策地区	東藻琴	81	代表	1	0~19	—	3.7	8.4	33.7	15.0	48.7	30.7	20.6	CL	97.0	26.3	33.9
				2	23~30	—	10.7	8.0	9.1	18.0	27.1	31.9	41.0	LiC	107.4	24.5	54.5
				3	30~50	—	4.1	1.5	8.9	19.2	28.1	49.4	22.5	SiCL	139.3	32.7	63.5
				4	50~65+	—	3.4	—	3.7	25.5	29.2	41.7	29.1	LiC	172.9	49.2	50.4
	1	39	1	0~16	—	5.3	7.3	38.6	29.1	67.7	23.7	8.6	SL	98.1	30.3	31.1	
			2	16~40	—	9.3	8.6	17.3	27.1	44.4	37.5	18.1	CL	119.8	29.7	50.9	
			3	40~60+	—	4.9	3.4	36.3	38.7	75.0	20.1	4.9	SL	129.3	35.7	58.1	
	東藻琴	45	1	0~18	—	5.0	6.0	35.2	22.2	57.4	29.6	13.0	L	—	—	—	
			2	18~30	—	6.2	3.4	15.3	29.8	45.1	26.9	28.0	LiC	—	—	—	
			3	30~50	—	4.0	1.5	27.4	31.5	58.9	24.8	16.3	CL	—	—	—	
			4	50~80	—	6.7	—	5.8	30.9	35.9	37.8	26.3	LiC	—	—	—	
	地区	40	1	0~18	—	4.5	6.2	44.3	26.1	70.4	21.6	8.0	SL	—	—	—	
2			21~33	—	5.5	1.9	18.5	22.6	41.6	29.5	29.4	LiC	—	—	—		
3			33~55	—	4.4	6.2	33.7	22.5	56.2	27.8	16.0	CL	—	—	—		
4			55~80	—	8.0	1.3	26.8	25.7	52.5	31.1	16.4	CL	—	—	—		
5			80+	—	5.7	0.6	16.6	33.8	50.4	30.9	18.7	CL	—	—	—		

性		化 学 性													
学性		PH			置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg / 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kc/l	T-C (乾土) %		T-N (乾土) %	C/N	CaO		MgO	K ₂ O				
35.8	70.5	6.1	5.3	0.3	3.57	0.28	12.8	17.4	349.1	3.6	29.2	72	1.285	3.5	
40.0	77.3	6.5	5.4	0.3	1.99	0.21	9.5	17.7	223.5	5.4	24.5	45	2.003	0.6	
36.9	73.4	6.7	5.6	0.3	0.72	0.08	9.0	13.9	164.3	7.5	17.4	42	1.747	0.2	
31.7	67.5	6.7	5.4	0.1	—	—	—	17.3	258.8	22.4	77.2	53	1.309	0.5	
32.6	67.0	6.3	5.5	0.3	2.59	0.26	10.0	16.5	154.5	5.4	3.3	33	2.183	0.6	
29.0	72.3	6.3	5.7	0.1	2.09	0.19	11.0	16.8	231.0	8.3	8.9	49	2.087	0.1	
25.2	65.8	6.2	5.3	0.5	0.54	0.05	10.8	18.4	256.8	29.4	111.6	50	1.290	0.8	
—	—	6.1	5.1	0.3	3.89	0.30	13.0	19.3	365.9	5.4	17.4	68	1.469	1.1	
—	—	6.3	5.5	0	1.88	0.15	12.5	11.6	138.8	11.1	7.1	43	1.777	0.7	
—	—	6.3	5.2	0.5	0.41	0.03	13.7	5.3	51.3	7.5	12.7	33	502	0.6	
—	—	5.5	5.1	0.5	5.19	0.54	9.6	27.3	625.2	11.1	43.3	85	1.405	6.7	
—	—	6.3	5.3	0.5	9.40	0.79	12.1	44.6	739.7	27.6	19.3	69	2.375	0.2	
—	—	6.2	5.5	0.3	6.02	0.55	10.9	25.6	616.3	22.4	42.9	86	1.343	4.8	
—	—	6.5	5.4	0	1.14	0.10	11.4	5.1	98.7	17.7	7.5	59	668	1.1	
—	—	6.2	5.2	0.3	5.65	0.52	10.9	24.9	316.0	5.4	23.6	45	2.323	0.7	
—	—	6.2	5.2	0.4	2.38	0.19	12.5	12.2	84.7	5.4	35.3	25	1.915	0.5	
39.8	73.7	5.4	4.6	2.0	5.07	0.45	11.3	17.9	265.0	8.9	18.8	53	884	13.5	
21.0	75.5	5.3	4.4	2.8	5.23	0.59	8.9	39.4	308.2	8.9	7.5	28	1.947	1.3	
3.8	67.3	5.8	4.4	1.3	0.91	0.07	13.0	11.2	123.7	7.5	1.4	39	235	3.2	
0.4	50.8	4.9	3.8	6.0	—	—	—	17.7	264.5	36.9	3.3	50	500	0.5	
38.6	69.7	5.9	5.1	0.1	4.50	0.49	9.2	21.7	452.0	11.1	25.9	74	1.045	4.5	
19.4	70.3	5.8	4.8	0.3	5.51	0.52	10.6	24.3	318.3	7.5	5.2	47	2.097	0.7	
6.2	64.3	6.0	4.9	0.3	2.10	0.19	11.1	13.3	138.8	5.4	4.2	38	1.547	0.8	
—	—	5.3	4.6	1.0	3.67	0.43	8.5	21.7	364.5	7.5	25.0	60	715	14.8	
—	—	5.9	4.7	0.4	2.13	0.22	9.7	17.4	297.8	7.5	21.2	61	905	1.1	
—	—	6.0	4.8	0.5	0.89	0.10	8.9	12.5	195.2	7.5	31.6	56	617	0.9	
—	—	5.9	4.6	0.8	—	—	—	26.9	369.8	36.9	8.5	49	1.141	0.5	
—	—	6.1	5.1	0.3	3.77	0.27	14.0	19.6	154.5	5.4	28.3	28	1.366	2.4	
—	—	5.9	4.9	0.3	1.14	0.13	8.8	17.3	295.8	8.9	1.9	61	840	0.7	
—	—	5.8	5.0	0.5	3.79	0.32	11.8	17.1	357.5	8.9	3.8	75	723	3.9	
—	—	5.9	4.5	1.3	0.82	0.06	13.7	25.9	67.9	147.8	15.1	32	1.526	0.1	
—	—	5.9	4.4	1.8	0.34	0.03	11.3	17.7	197.1	97.4	15.1	40	780	0.3	

土壌分析成績 (畑)

保 全 対 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学												
					礫 (風乾物中) %	風乾細中 土 腐		無機物中					土 性	現地における理 100cc 容			
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
		40C	1	0~18	—	4.3	8.3	44.4	27.0	71.4	22.5	6.1	SL	129.0	—	46.2	
			2	23~37	—	5.7	3.2	23.2	25.5	48.7	25.8	25.5	LiC	131.4	—	59.5	
			3	37~57+	—	6.6	6.1	16.0	35.6	51.6	33.3	15.5	CL	139.4	—	52.0	
藻 琴 川 保 全 対 策 地 区	チブサ川 藻琴川 代表	48	1	0~15	—	5.8	10.2	38.4	27.7	66.1	26.4	7.5	SL	—	—	—	
			2	15~45	—	11.2	16.7	12.9	25.0	37.9	47.7	14.4	SiL	—	—	—	
			3	45~70+	—	9.1	2.5	35.1	33.4	68.5	27.9	3.6	SL	—	—	—	
	チブサ川 藻琴川	49	1	0~20	—	5.2	7.1	41.4	29.2	70.6	23.2	6.2	SL	—	—	—	
			2	20~60+	—	5.0	6.2	7.9	34.7	42.6	36.9	20.5	CL	—	—	—	
		藻琴川 藻琴川 代表	52	1	0~15	—	5.3	10.8	31.4	25.9	57.3	26.9	15.8	CL	—	—	—
			2	27~52+	—	5.0	6.2	7.9	34.7	42.6	36.9	20.5	CL	—	—	—	
西 倉 保 全 対 策 地 区	西倉 西倉	LP 代表	1	0~28	—	9.9	14.9	18.7	26.9	45.6	32.2	22.2	CL	107.9	25.0	51.4	
				2	32~39	—	0.6	1.2	92.1	2.9	95.0	3.7	1.3	S	100.3	—	27.9
				3	39~65	—	9.8	25.8	8.2	19.4	27.6	32.4	40.0	LiC	104.3	12.1	75.9
				4	65~75	—	6.4	13.8	3.5	19.9	23.4	38.9	37.7	LiC	116.8	19.1	75.1
				5	75~100	—	10.2	14.2	0.8	15.8	16.6	40.8	42.6	LiC	115.0	—	75.7
		LP ₂	1	0~22+	—	6.5	23.1	29.6	26.3	55.9	28.5	15.6	CL	98.6	18.8	59.5	

性		化 学 性												
学性中		PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me / 100g	置 換 性 塩 基 mg / 100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg / 100g
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H ₂ O	Kcℓ		T-C (乾土) %	T-N (乾土) %	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
—	—	6.3	5.1	0.3	5.07	0.50	10.1	22.3	472.5	3.6	10.8	76	1.170	1.3
—	—	5.5	4.3	2.5	1.96	0.16	12.3	20.0	266.9	7.5	3.3	48	1.065	0.7
—	—	5.8	4.4	0.6	3.80	0.30	12.7	20.7	195.2	7.5	7.1	34	1.310	0.8
—	—	5.2	4.7	1.0	6.28	0.55	11.4	25.6	441.6	7.5	63.6	62	1.685	4.1
—	—	6.1	4.8	0.5	10.96	0.97	11.3	46.8	482.8	7.5	11.8	37	2.678	0.2
—	—	6.3	5.2	0.3	1.50	0.13	12.3	9.4	77.1	5.4	3.3	30	1.366	27.1
—	—	5.9	5.1	0.3	4.37	0.45	9.7	22.3	410.8	11.1	36.3	66	1.354	4.1
—	—	6.3	5.0	0.1	3.77	0.23	16.4	19.7	345.2	26.6	2.8	62	693	0.7
—	—	5.6	4.8	0.3	6.65	0.52	12.8	21.3	318.3	11.1	57.0	54	1.097	4.5
—	—	6.3	5.0	0.1	3.77	0.23	16.4	19.7	12.3	1.3	0.1	73	693	0.7
23.6	75.0	5.0	4.5	1.4	9.60	0.79	12.2	28.8	382.2	8.9	13.2	47	948	12.0
—	—	5.6	4.6	1.0	0.68	0.04	17.0	3.1	27.8	2.2	0.9	32	87	4.6
12.0	87.9	5.2	4.6	2.5	16.61	1.31	12.7	48.6	349.4	7.5	9.9	26	1.700	0.4
5.8	80.9	5.3	4.4	2.1	8.57	0.50	17.2	25.6	297.8	22.4	22.1	41	391	0.8
—	—	5.2	4.3	2.5	9.21	0.76	12.1	48.6	513.7	14.7	25.0	38	765	1.2
21.7	81.2	5.7	4.9	1.1	14.36	1.20	12.0	36.8	718.9	14.7	19.3	70	916	10.2

